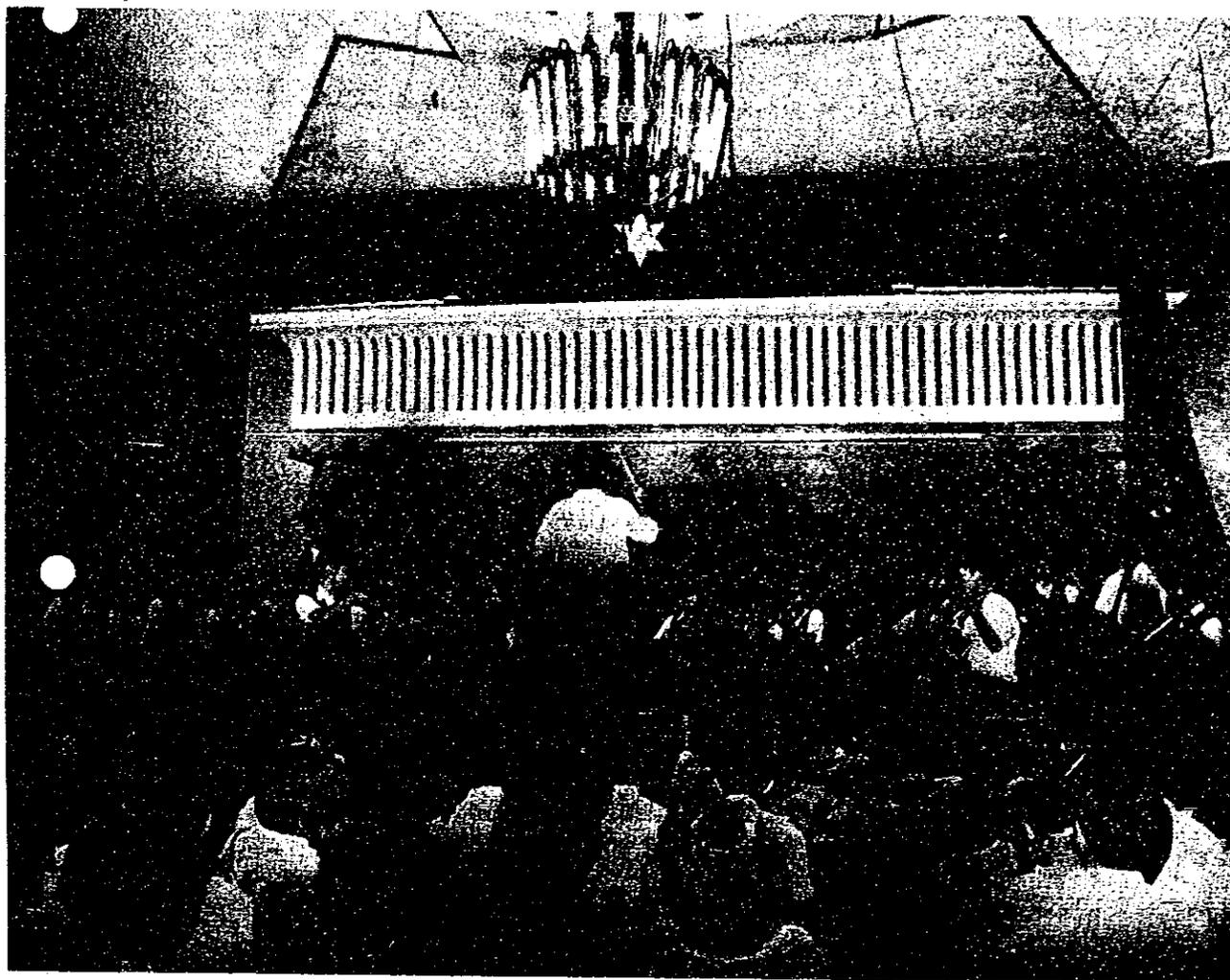


# 六稜舎報

NO. 20 1987・10・1

昭和62年10月1日発行  
発行 大阪府立北野高等学校内  
六稜同窓会  
〒532 淀川区新北野2-5-13  
電話 06(303)5661代表  
振替 大阪9-068025  
六稜同窓会名簿刊行会  
振替 大阪1-309004  
編集 山本次郎・滝崎正巳・阪田善信  
印刷 フジエフオート印刷  
電話 0729(87)8254



北野高校オーケストラ部

昭和62年6月14日 於 文化祭

ベートーベン「第1交響曲」を熱演中

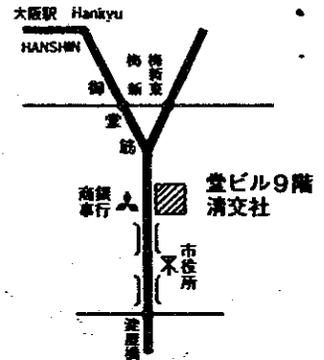
# 114周年総会

## ご案内

会場 堂ビル9階 清交社

北区西天満 2-6-8

TEL. 361-0833



日時 11月6日(金)

5:00 PM 受付 6:00 PM 開宴

(新人歓迎 立食パーティー・ビール飲み放題)

会費 3,000円

(但し、S58卒以降—卒業5年以内と  
S5卒以前—75歳以上の方—無料)

※ 出席の御連絡をお願いします

卓話 「漢方薬と肩こり、腰痛について」

近畿大学医学部付属

東洋医学研究所員 清原祥恵さん(69期)

卓話者紹介 昭和32年大阪府立北野高校卒業。

昭和36年大阪薬科大学卒業後、薬用植物の研究をつづけ、その後医学部に席をおき、現在近畿大学医学部付属東洋医学研究所にて漢方薬の臨床の場での有効性の研究をし、現代医学の場においてどのように漢方薬が生かされるか、を研究している。

医師会やカルチャー教室の講師、ロータリクラブでの講演、TV出演、各メーカーの講演など漢方薬や薬用植物(生薬)について全国各地を講演。文筆活動も、新聞、健康雑誌「私たちの健康」(主婦の友社)「安心」などに活躍中である。

## 昨年の総会から

### 卓話 「落第の効用」

弁護士 津田 禎三 (51、52、53期)

私は昭和八年に旧制北野中学校に入学したが、この年の十月に陸軍参謀次長一後の関東軍司令官一植田謙吉將軍が講演の爲来校された。この折、図工の時間に中村堯典先生から「將軍は私と同時に前身校の大阪尋常中学校に入学された。不運にも二回落第、都合あって卒業前に退学された。今は、天下の名將軍として日夜国事に奔走されている。」と伺い、一年坊主一同大変感激したものだ。同じ運命が自分を待っているとは思ってもよらなかった。

私が二年生の時、病気に次ぐ病気、挙句の果ての開腹手術で長期欠席となり、一回目の落第となった。

初めは格好の悪い思いもあったが將軍のことを思い起こし、「今に見ておれ」と胸を大きく張ってまわりを睨み付けていたことを思い出す。その後の三年間が私の六稜時代で一番充実しており、人生の友が出来たのもこの時期だ。52期生がこれに当る。

そのうちに六稜を取りまく環境は、まことに悪くなり、日中戦争に突入。軍事教練で絞り上げられる時代になった。そうなる学校がおもしろくない。当時甲子園から阪神電車で通学していたが、けんかがきっかけで浪商、大商のワル者共とつき合い始め、通学区間ではちょっとした顔になった。成績は落ちる一方で、成績不良により二度目の落第。

今度は二年も下の人と一緒になり、最初のうちは話がうまくかみ合わない。それに、古い51、52期の仲間がどんどん卒業していき、心細くなって来て、一人静かに物思う日が多く、書を読みふけた。人間とか人生とかを真剣に考え見詰めようとしていた時期であった。勉強の方はさっぱりで、そのうち学校へも行かなくなり、一年先に放校処分になった山本という男のところにいりびたっていた。これが学校にばれ、昭和14年の暮れもおしせまったある日、職員室に呼び出されて担任の先生から退学処分が決ったことを知らされた。

この事に余り驚かなかったが、生涯の不名誉だからこちから出て行ってやろうと考え、夜半毛筆で「右の者、

今般家事都合により退学致させます。この段お届けに及び候なり。」と退学届をしたため、親父の印鑑を盗用し、翌日校長室へ直行。そのいでたちたるやまことにすさまじく、かすりの着物、小倉の袴、下駄ばきに制帽をかぶり、校長の前に退学届を置いた。長坂五郎校長は一瞬ひるまれ、顔面蒼白になられたが、暴力行為に及ぶ気配はなさそうだと安心され、ぐっと反り身になって「君の様な優秀な生徒が卒業を前に本校を去って行くのはまことに残念である」とおっしゃられた。

こうして私の六稜生活に終止符を打った。

その後、友人の強い勧めで四年終了の資格で中央大学の予科に入り、中央大学に進み、二回生の時に出征。パシー海峡で乗り込んでいた駆逐艦が撃沈された。今でも米製の弾丸の破片が左右の足に入っている。戦後復学し、紆余曲折の後、親父の後を継ぎ弁護士になった。

落第、放校で得た私の財産とは何か。

一つには、皆様方の三倍の学友を得、非常に密度の高い友情に暖かく包まれたことだ。仕事をしても、大事な所は人間関係が決まって来る。これはすばらしい財産だ。

二つには、「三角野郎の論理」を知った事だ。教育とは人間の角(短所)を矯め、角のない円満な人間を作るものと考えられることがあるが、これは正しいものではない。例えば、三角形の三つの角を無限に伸ばしていくと円になるが、この角を切っていくと小さな円にしかならぬ。短所は長所と裏腹だが、欠点を抑えつければ、良い所は消えて行く。三角野郎は三角野郎でよい。ふんづけられても胸を張って、どんな悪条件下でも泣き言を言わず、大きく構えてありのままの自分でしぶとく生きぬく。こうすれば、やがて、円とまではいかずとも、少しいびつでも大きく強く円に近くなるものと思う。これが私の得た自己開発の方法論だ。

三つには、「過去は変わるもの」という人生の哲理を得たことだ。過去が不変のものならば、私などは落第、放校の重圧でこの世から逃げ出さなければならぬ。この考えが誤っていない証拠に、この演壇に立って落第、放校の話を楽しげにやっている。私の過去が時の流れの中で浄められ、新しい意味と形を持った事実として生きているのだ。過去が変わるから前に向かって生きて行ける。それが人生だ。この確信が私の生き様を支えている。

これらのすべてが落第、放校の私の成果、否、精華であり、効用であるといえる。(要旨)

## 年会費は 2,000円です !!

### よろしくご協力をお願いしまあす !!!

年会費制度の採用によって、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 大阪9-068025 名称 六稜同窓会

▲お手元の六稜会報郵送封筒の表の\*印は昭和61年度年会費納入済の印です。

# 会 務 報 告

第一回常任理事会 6月11日 於清文社

第一回理事会 6月24日 於清文社

出席：上野会長、鴻池副会長、松下名誉会長、理事計28名出席

議題

1. 昭和61年度会計決算報告
2. 昭和62年度会計予算について
3. 総会について
4. 東京六校会報告

◎ 今回からは、振込用紙にコンピューターで住所、会員番号等を印刷し、窓あき封筒としました。これは、卒業年度や会員番号を振込用紙に記入されない方があり、調査に手間取り、万全を期すことが従来の方法では、やや難しい為と、会員の方々の年会費等を払込まれる際の御手数を省く為でもあります。この為の予算を80万見積っていますが、旧に倍する御協力をお願いします。

◎ 総会への若い卒業生の参加も多く、会場もやや手狭になり、会場については検討の時期に来ているとの御意見があり、総会の形式についても一考をとの御指摘もいただきました。

## 会 計 報 告

昭和61年度 六校同窓会 一般会計報告

科 目	61年度予算	61年度決算	備 考
<b>収入の部</b>			
	円	円	
1. 前年度繰越金	3,253,408	3,253,408	
2. 入会金収入	1,690,000	1,700,000	1,700人× 1,000円
3. 年会費収入	6,300,000	5,901,000	
4. 広告収入	200,000	0	
5. 臨時会費収入	500,000	426,000	142人× 3,000円
6. 寄付金収入	10,000	8,000	
7. 利息収入	20,000	33,598	
8. 雑収入	10,000	0	
<b>収入合計</b>	<b>11,983,408</b>	<b>11,322,006</b>	
<b>支出の部</b>			
	円	円	
(1) 運営費	*4,000,000	*2,944,681	
1. 人件費	1,000,000	600,000	
2. 旅費・交通費	250,000	159,890	
3. 通信費	120,000	91,475	
4. 印刷・事務用品費	100,000	55,664	
5. 会費費	230,000	230,000	*予算超過により 子費費より支出
6. 総会費	1,000,000	1,000,000	*予算超過により 子費費より支出
7. 慶弔費	800,000	405,230	経済関係品料を 含む
8. 雑費	500,000	402,422	
(2) 会報発行費	*3,210,000	*3,088,490	
1. 編集費	100,000	90,000	
2. 印刷費	1,700,000	1,700,000	*予算超過により 子費費より支出
3. 発送費	1,400,000	1,298,490	
4. 雑費	10,000	0	
(3) 予備費	*2,073,408	* 610,759	
(1) 5 会費費	0	81,785	
(1) 6 総会費	0	419,170	
(2) 2 印刷費	0	109,804	
(4) 他会計へ支出	*2,700,000	*2,700,000	
1. 基金積立会計	2,000,000	2,000,000	
2. 名簿特別会計	700,000	700,000	
<b>支出合計</b>	<b>11,983,408</b>	<b>9,343,930</b>	
<b>次年度繰越金</b>	<b>0</b>	<b>1,978,076</b>	

昭和61年度 六校同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算	備 考
<b>収入の部</b>			
	円	円	
1. 前年度繰越金	2,041,423	2,041,423	
2. 名簿売上収入	120,000	165,000	55冊× 3,000円
3. 広告収入	0	0	
4. 利息収入	50,000	99,697	
5. 雑収入	0	0	
6. 一般会計より受入	700,000	700,000	
<b>収入合計</b>	<b>2,911,423</b>	<b>3,006,320</b>	
<b>支出の部</b>			
	円	円	
1. 編集費	0	0	
2. 印刷費	900,000	940,595	註*
3. 発送費	12,000	8,750	
4. 雑費	10,000	150	
<b>支出合計</b>	<b>922,000</b>	<b>949,495</b>	
<b>次年度繰越金</b>	<b>1,989,423</b>	<b>2,056,825</b>	

60年度残312冊、61年度売上55冊、寄贈1冊

61年度残256冊

註\* 名簿台帳・DM宛名ラベルの印刷

昭和61年度 六校同窓会基金合計報告

科 目	決 算	備 考
<b>収入の部</b>		
	円	
1. 前年度繰越金	41,618,660	大和銀行 金銭信託
2. 利 息	2,358,632	大和銀行 金銭信託
3. 新規積立金	2,000,000	大和銀行 金銭信託
<b>収入合計</b>	<b>45,977,292</b>	
<b>支出合計</b>	<b>0</b>	
<b>次年度繰越金</b>	<b>45,977,292</b>	大和銀行金銭信託

以上の通り昭和61年度六校同窓会会計報告をいたします。

昭和62年 5月26日

六校同窓会長 上野 洋 一

本会計の正確であることを認めます。

昭和62年 5月26日

六校同窓会監事 滝井 尚 三  
岡 橋 田 圭 兒

# 東京六校会第30回記念総会 盛会裡に終る 新会長に 河崎晃夫氏(49回)

東京六校会幹事 藤田勝彦(90回)

東京六校会第30回記念総会が恒例の如く日本工業倶楽部にて6月5日(金)午後6時より盛大に開催された。30回の記念総会であるから、通常総会とは違ったアクセントをつけた総会にしようと、幹事諸氏が、準備段階でいろいろとアイデアを出し合った。東京六校会も30年の歴史を経たのであるから、この際、設立以来の事情を纏めておこうということで、63回年度幹事上田弘子さんをお願いして「東京六校会30年のあゆみ」なる小冊子を編集、発行した。設立当初の資料が残っていないので、上田さんには苦勞をおかけしたが、立派な小冊子が出来上り、これを受付で来会者にお渡しした。

また今回は、御高令の来会者には記念品を贈呈致すこととして、第40回卒業生及びそれ以前の卒業された方を対象とさせて頂いたところ、六名の方が見えられ、夫々、記念品をお持ち帰り頂いた。

総会に入り、先ず大山代表幹事より「かねて玉置会長より東京六校会会長を後進の方に譲りたきご意向を伺っておりましたが、30回という機会に是非実現したいという強いご要望で、今回、49回の河崎晃夫氏(三菱レイヨン社長)にバトンタッチされることになりました。多くの先輩方とご相談の上、5月27日の幹事会で全員一致で互選させて頂いたので、本総会でご承認をお願い致し度、旨の発言があり、全員賛成の拍手の下に、河崎氏が東京六校会の会長に、玉置氏は会則3條による東京六校会の顧問に御就任頂いた。

玉置前会長より「20回総会以来会長としての10年間の速き歲月、の思い出を語られ、新会長河崎氏よりは、伝統のある北野の東京の同窓会長として、先輩も多数おられるけれど、盡力致し度き、旨の御挨拶があった。

10年間、会長として東京六校会の面倒を見てこられた玉置氏に感謝の記念品を贈呈致すところであるが、玉置氏は固辞されたので、幹事会では、併せて30回を記念して、東京六校会より母校に記念品を送ることを決め、玉置前会長より松下校長に、トレーニング機器の目録を贈呈された。

ついで松下校長より、御札の御挨拶と母校の近況報告をして頂いた。1学年14学級で全校生徒1,823名のマンモス学校となっていること、体育活動として、ラグビー部が春の大会で6試合全勝優勝を遂げたこと等を述べられた。冬の全国大会に出場出来て、健闘している様をテレビで見たいものである。

大山代表幹事は、決算報告のあと、常任幹事交替の件を報告された。現在44回生から61回生の方々に常任幹事をして頂いている。今年は30周年という節目であるので

東京六校会もこの機に若返りを計って、63回以降の方々、つまり全員北野高校卒の方々に常任幹事ををお願いすることを幹事会で決めたことの報告。そして、新常任幹事として、63回の岩木俊氏、龍居道子さん、67回の檜川哲次氏、68回の加藤周子さん、69回の大谷昌平氏が選ばれたことが発表された。

又、来年からは、東京六校会総会の世話役を当番制とし、第31回総会は、69回生を中心に進めていくことになった旨を説明された。

以上で総会の議事を終え、記念講演にうつった。今回は御日建設計の取締役東京第二事務所長の平井堯氏(67回)をお願いした。東京再開発を東京ルネッサンスとして、陸・海・空の三方面から考察された東京再構造論で、興味あるお話であった。再開発といっても、杓子ばったやり方で無理やりビルを建てるのではなくて、守るべき箇所は守り、開発すべきところは開発する。そして文化のある魅力ある都市にするというのが、私の考える「東京ルネッサンス」であるというお話であった。

懇親パーティは、福井澄男常任幹事(55回)の司会で、大杉一郎氏(40回)の乾杯の音頭で始まった。東京六校会生みの親の一人である龜山仁郎氏(47回)が、わざわざ岐阜市から駆けつけて下さり、お祝辞と東京六校会設立当時の苦勞話をして頂いた。アサヒビールの中小路茂次前専務(58回)の御好意で、いつもより、アルコール類も多く、賑やかに会は進行、宴もたけなわとなり、土井純二君(97回)による新会員28人の紹介があり、新会員を代表して宿里明弘君の「北野を誇りにしています」という苦々しい挨拶があった。

更に30周年ということで、余興として福引を行なった。賑やかな談笑の中、幸運の番号が呼び上げられる度に場内は盛り上った。

小菅宇八郎氏(53回)、檜川哲次氏(67回)両氏から寄贈された賞品や、準備された賞品、計20点が市野優子さん(95回)から当選者に手渡された。

お開きも近くなり、元応援団長中村典美氏(49回)の音頭で応援歌と校歌の大合唱となり、その後、来年の世話役である69回の方々の紹介があり、最後に大山代表幹事の手締めによって第30回総会は最高潮の中に閉会となったのである。因みに、今回の来会者は260名であった。

## 東京六校会事務局

〒160 東京都新宿区四谷3丁目5  
不動産会館705号

社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟  
事務局長 檜川 哲次

電話 03-357-3741

# 北野戦後史

題字 泉 徳二元校長

— 連載第10回 —

## 勤評余聞

72期の青春

谷口哲朗  
久下敏彦  
肥塚敏彰  
新原知信

久下 昭和33、34年当時の自治会を運営されて三君にお集まりいただいて、勤評当時の生々しい話など伺いたいと思います。

釜江 僕はあの当時、自治会の副委員長をしてました。まず、なぜ僕が自治会に立候補したか、ということなんですけど……そもそも最初はね、丸山君と僕と会計の肥塚君、書記の新原君、岩崎君の5人で自治会の執行部を構成したんだけど……5人とも1年生のときに、たまたま同じクラスでね。丸山君というのは1年上の人だったんだけど、病気で1年遅れてきて、我々と一緒になった。彼のパーソナリティーは非常にすばらしい人で、夢を追って生きていくような人で、要するに青春時代をエンジョイしようじゃないかと。受験勉強に明け暮れるんじゃないかと、文学、映画、音楽、哲学、何を論じて、口角泡を飛ばすという人物で。それで僕なんかは彼に連れてってもらって、ドイツやフランス、ソ連の反戦映画を見に行ったり、それから今井正の「純愛物語」とか「米」とかをね。特に「純愛物語」というのは、丸山君が感動して「是非行こう。行こう」と云うのでね。そういうようなバックグラウンドというのが背景にあったと思うんです。ある程度、日本の社会も安定し、いわゆる左翼運動というのも、どちらかと言うと歌聲運動とか文化的なほうへ

変化して行った時代で。そういう付き合いが1年のときであって、それから2年生のときに丸山君が自治会をやろうと唱えた。立候補したときは特に勤評問題というのが頭にあった訳ではなくて、ただ一般的に我々はそういう民主的な進歩的な方向を向いていたことはたしかだったけど、丸山君の抱負としては、いろんなサークル活動みたいなもの、フォークダンスをやったり、弁論大会をやったり、講演会を開いたりという、我々の高校生活をいわば潤すような催しをやって行こうじゃないか、という方向に向いてたと思うんです。

新原 当時の自治会は瀕死の状態にあった訳ですわね。昭和33年後期の自治会が成立するかどうか危ぶまれておった。総会を開いても、誰も立候補の意志を示さない。当初、たしか松山君が登壇して、「この自治会はとりあえず休会にして、学校側にあずけよう」とまで演説した。そのとき、丸山君が立ち上がって壇上に登って行った。僕はあのころは、自治会をなんとか支えるなんていう気持はなくて、柔道のほうが面白いから柔道に専念しとった訳ですけどね。彼が登壇してマイクを持って……非常にナイーブな人だから、マイクを持って人の前に立つと、彼はものすごく上がる訳ですわね。上がって引もて、マイクのコードを持って引き廻すわ、引きちぎろうとするわ、そして云うてる内容がよう分からんわで、皆の爆笑をかってる訳です。しかし、彼が一番云いたいことは「長い間続いた北野の自治会をここで休会にするには忍びがない。なんとか継続させよう。そんな性急な結論を出さずに、もう一回、皆で考え直そうやないか。この総会は流そう。流して、次のチャンスを待とう」というようなことを発言した。それがものすごく印象にある訳ですわね。その総会を彼の意見で結論を出さずに流して、僕らにすぐコンタクトがあった訳です。内閣を組織しようとな。大した意識もない我々を彼が組織

して来た訳ですわね。

それが、昭和33年の9月ぐらいやなかったかな。それでせっかくできた内閣だから、何かをしなくてはならないと、模索が始まったんやろね。当時は、さっき釜江君が云うたみたいな状況が学生の中にあって、受験と……大企業がどんどんどんどん大きくなって行く時代やから、そこへいずれ大学を出て就職しようなんという、今の子供たちの気持と殆ど同じようなものがあそこらで生まれ出した訳です。その直前までは、破防法とか北陸の内灘事件とかのいろんなホットな政治事件があって、北野高校の学生が関わった吹田事件もあったんですわね。だから割と揺れた時代でもあった。ところが我々の時代になると、4、5年前から非常に温室みたいに穏やかになってた訳やな。

久下 ところが33年12月1日の、我々が2年生だったときの六後新聞61号には、寸評として、「激烈な全学連闘争」というのが出てるんだよね。

新原 それは何の闘争やったんかな、全学連闘争て。

久下 僕の記録では警職法、勤評闘争。それと、過日亡くなられた岸さんが首相になられて、正直云ってあまり評判のよくない、特に北野の学風というのかりベラリストからは好かれないう方が当時の首相になられたということ。だから、先程云われたような穏やかな感じの平和な社会ではなかったのは事実だと思うんだけどね。たとえば、この新聞の61号には「変則国会と二つの問題」という記事がタイムリーに出ていて、「国民の政治に対する関心は異常に盛り上がった」というふうに書かれている。ですから、生徒一人一人にとっては決して無関心ではなかったはずなんだけども、ある意味で煩わしいことからは逃げたいという気持もあったように思います。

肥塚 この当時の六後新聞の70号に、僕自身が書いています。丸山君の

ことを「友を語る」という題で紹介して。ほんまにすばらしい奴やったということ、この文章を読んで改めて思うんですけどね。当時の我々にとって、丸山君がいかに大きかったかということが、この文章を読めば……今さっきからも話が出てますけども、丸山君というのは本来は1年上なんです。腎臓を患って1年遅れて、我々と同じ学年になった。しかも1年の1組やったんですね、釜江も新原も僕も。零石先生のクラスですけどね。ここにも書いてますけど、風采はちょっと見では何でもない男というか、それが第一印象やと書いてますけど、事実、そのとおりやと思います。当時の、今でもそうかも分らんけど、北野にはなかなか見られないタイプの人物やった。ここの文章で云うと、「北野には稀な、純真な、情熱的な意志の強い、すばらしく内面豊かな、人間の魅力に溢れた人物である」ということなんです。進学とかそういうことにはあんまり価値をおかない人物でしたからね。

釜江 丸山君も僕もおそらくそうだけど、すでに受験万能になりつつあった時代に対する反発という、レジストというものがあつたと思うんですね。それがどこに出るかというのが、たまたま偶然に自治会に出たんであつてね。

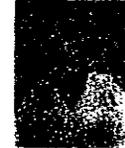
新原 ところで、あれから半年間、闘争みたいなものが始まって終焉した訳やけども…生徒たちが冷ややかだったとは云えないかもしれないけど、しかし、我々に積極的に協力しよう、ないしは積極的に反発しようという、主体的に捉える人たちはあまり多くなかつたということは云えるね。我々の側で一緒に悩もう、あるいは反発しようという、学生は1割、せいぜい1割5分。そのぐらいたつたよね。それが我々の悩みだったね。

肥塚 いわゆる動評問題が生徒たちに意識され始めたのは、そのころの世の中が動評でものすごく動いていたというか…新聞をはじめとして、全国各地でね。そういう中

での話だと思ふんだけど。はっきり記憶はないんですが、我々は役員になる前からそういう関心は充分あつたと思ふんですけどね。

新原 高知で日教組の小林委員長が刺されるという事件があつたよね。僕らが執行部になる前やったね。

釜江 我々はね、動評闘争以前から、肥塚、新原が中心になって労音を。



割に文化的な活動というか、そういう面である意味で反体制的な色彩を持っていたように思ふんです。

ある意味で、世の中全体に怒りを感じるようなことがあつた。それと我々自身の青春を求めた部分があつて、丸山君なんてのは彼なりのロマンというのがあつて、フォークダンスをやり、サークル活動をやり、哲学を論じ、文学を論じて、そういう広い彼の生き方の中で、自治会活動というのがあつたんだと思ふんです。

新原 丸山君が死んだのは高校3年生の夏だったね……

釜江 腎臓でね。

新原 動評闘争が我々の段階で終焉した途端に死んでるからね。彼は動評闘争で我々が跳ねたといつて心配した訳。病床にありながらね。久下 跳ねたというのは、どういう意味？

新原 我々がやりすぎると。「新原君、釜江君、肥塚君、君たちはやりすぎてるぞ」と。そうやって病床から抑えにかかつた訳です。心配しとつた訳。「お前は、後で叩かれるぞ。抑えろ、抑えろ」とね。

久下 君は、いまだかつて、一べんもそんなこと云つたことないぞ。

新原 彼には彼なりの、活動の方針のイメージがあつたんやろね。そのイメージを超えて我々が行くから、彼はものすごく心配した訳ですよ。で、それを抑えにかかつた訳。僕らはやっぱり、「今はこんな時代や。多少は覚悟しとる。釜江も行く」と云うとろ。

久下 行くというの？

新原 ある程度、指導的立場で跳ねる、ということね。しかし彼は、

学校から飛ばされるほどの無鉄砲な行動はやるなよ、と。

釜江 丸山君はもっと全人格的に物事を捉えて、年上というだけ世間を良く知ってるんですよ。あまり跳ねてるとどういふ結果を招くかということも、ものすごく心配してた。彼にはものすごくそういう責任感もあつたと思ふんです。

新原 今の話は、僕たちが17歳、丸山が18歳、その程度の話だよ。ところが今、僕が46歳になつても、当時の18歳の丸山をまだ尊敬してる訳です。初めて今日、釜江の意見、肥塚の意見を聞いた。それで同じ思いを持ってると思つた。それは一つの驚きやね。僕は僕だけで丸山のイメージを抱いていた訳よ。46歳の僕でもあのかのときの18歳の丸山を尊敬してるんやからね。

釜江 丸山君は僕らと一緒に生きてるんだな。まだ僕らの友人たり続けているんだ。

新原 で、丸山君の指導で、我々は2学期を通してたくさん行事を行った訳ですよ。指導部のかなりの抵抗を受けながら。指導部は明らかに、学生側が動評に関心を持たない方向で指導しとるつもりで、自治会を監視してましたからね。我々は動評闘争を端から意識してたから、拠点校と指定されている北野高校に何かが起こるといふ意識があつて、その準備もしなければならんという気持ちもあつた。まず、弁論大会を開いた。それから黒田了一先生を敢えて呼んで、講演をしてもらつた。それから最後に、総括的な意味で機関誌を出した。これが2学期の活動な訳です。動評闘争が北野にも来るだろうという予想の下に、我々は準備をしとつた訳ですよ。

肥塚 自治会機関誌と新聞と、いろいろ入り乱れて出てるけど、その辺のところは六稜新聞の61号で、役員側の説明が出ています。「六稜新聞は、新聞部としての立場で生徒会関係の記事を扱うが、機関誌の場合にははっきりと生徒会としての意見を打ち出したい。もつぱら生徒会議会関係の記事を取り扱

って、一般生徒の生徒会に関する関心を盛り上げたい」と。これに対し新聞側は、「新聞部は新聞部としての意見があり、役員会、議会の御用機関ではない」と断った、とね。

久下 意見云うてよろしいですか。新聞部の当事者として、僕自身、今も昔も変わらないけども、新聞というのは事実だけを述べればいい。ミスリードしてもいけないし、ミスアングスタンドしてもいけない。16か17の子供心にも、それは考えていた。現在でも大新聞が、言論の自由だとか何だかんだと云いながら、ええかっこするけどね。しかし、戦前はミスリードばかりしてた事は覆い隠せないでしょう。だから、せめて校内新聞ぐらいは公平に事実だけを述べよう、と。僕は今もそう思ってるし、ノンポリと云われようと何と云われようと、ミスリードをしない。事実だけを述べるというのが、新聞とかマスコミの真髄ではないか、と思います。

新原 我々は青春の発露を北野に求めとったんやから、そのあたりで食い違つて、機関誌を出さざるを得なかったということでしょうね。青春の発露ですよ。だ



って、あそこで青春を表現できなかったら、何があるの。今のマスコミ、新聞の程度をあれで表現したって、何が青春やねん。そう僕らは思ったから、出したんやろね。この安っぽい、チラシみたい新聞。

肥塚 こういふように1号が出て、それが始めて終りだったようなんですけどもね。いみじくもこの六稜新聞はこう云ってますね。「役員自身の手によるものであるので、役員会の主張や性格は強く表われそうである」とね。(笑)

新原 それが新聞部の意見やねん。久下 意見かどうかは知らないけども、さっき申し上げたようにプラウダのようになっては困るという意味もあったと思うね。今聞けば、新原君とか釜江君の情熱も良く分

かるしね。当時、僕は、北野の相対立している人たちを平等に紙面に載せるのが使命という気があったと思うんですよ。ただ学内新聞ですから、弾圧とまでは云えなくても、それに近いことがあったことは事実です。

新原 自治会にも弾圧があった。新聞部にも弾圧があった。そういうことだよ。

久下 社研とか自治会だとか、いろんなことがあったけども、僕は、何と云われようと右にも寄らない、左にも寄らない。正しく事実を伝えるだけで新聞というのは使命を果せるんじゃないか、という大それた気持を持っていたことは事実ですね。先程から役員の人たちがいろいろ云ってるけども、そういう意識がなかったことも第一ですし、情熱もなかったのかも分らないけども、一般の生徒たちというのは、関心事は大学を受験すること、実力テスト、職員室の前に貼られる成績表、これが大事やったと思うんですよ。だから当局者、組合側の先生の立場と、自治会の立場と、一般の立場というものを事実どおり報道することが、六稜新聞の使命やと思ってたことは間違いない。

新原 ところでね、34年の2月に一つの大きな事件が起つた訳です、子供たちにとって。自治会の望んでいることは、勤評問題を主体的に取り組みたいと。そういう気持がずっとあった。その前段階で、いろんな催しをやった。非常な困難やったんや。弁論大会一つでも困難。機関誌一つでも困難。11月の文化祭に黒田了一先生を呼んで講演させるのも困難。これを選んだ途端に、指導部の抵抗があった。で、そういうことを乗り越えて、やっとこき12月を乗り切つて正月が明ける。まだ静かな学園が続いとつた。そして2月2日に至つて初めて、北野分会から突然…、我々はダレとつた。拠点校に選ばれた北野分会からは、待てど暮せど何らの反応も出ない。そのころは、勤評反対闘争のハンストがあつて

ね。2月2日に宣言をやつて……最後の授業が2月に入ってから10日ぐらいあつたな。その間やったな。それまで我々子供たちは精一杯のアピールを分会に送つた訳ですよ。ラブコールを送つた。にもかかわらず全然動かない。その時期が随分長かつたと思うんです。長くて長くて、正月が明けてやつと、2月2日、分会声明が出た訳です。勤評反対、そして教頭、校長の不信任。学校当局をネグレクト、不信任という……

釜江 今、教頭のほうを先に云つたね。(笑)

新原 教頭先生のほうが私たちの目の前にいてはるし。(笑) 面白い授業でね、西洋史の裏の裏に行くからね。その裏の裏を説明して行く先生がなぜ反体制を分かってくれへんのか、非常に残念やつたけども。(笑) 僕らは三人だけやったかも知れんけど、常に送つていたラブコールのアンサーがあつた、答えが出たと。裏門を入つたときに感動的にそれを見た訳。その文章をね。そしてすぐに、授業にも出ずに、行動に入った訳よ、その日一日。その文章はね、僕の記憶では、勤務評定が非常に反動的な教育制度である、と。非常に政治が関与して来て、何かを教育の中に持ち込もうとしている、それが古い熱い教育制度を持ち込もうとしている、といった感じやね。それを先生方が断つて来た。我々はこれに反対するんだ、と。先生方の個人的利益をいうんじゃない、個人的利益どころか、先生方は生活を賭けてるんだ。だから、ただ、そういう古い教育制度に後戻りするのを阻止するだけだ。そういう制度に持ち込む、この勤評制度に我々は反対するんだ、と。それを当局は強行するから、反対するんだ、と。不信任を決議する！ こういう声明が現われた訳です。それで校門に貼り出されたその文章を見て、私たちはもっと前から意識的にはそれを考えてましたから、やつと先生の子供たちへのアピールが来た、と、たった三人だけ

ですけども信じたんです。ところが、殆どの学生は無関心にそれを通り過ぎたでしょうね。今日の授業は行なわれたのかなあ、というぐらいの疑問はあったかも分らんけども…我々は、すぐに作業に入った。それが2月2日の夕方。

久下 新原君はそういうふうに云ったけども、僕自身の印象は全然違う訳。

新原 あなた、そのとき見てないよ、その日は。ただ校門を過ぎて、声明文を読んで、新聞部へ入ってるだけや。僕らはすぐ、釜江、肥塚、新原だけで、作業に入ったからね。

久下 いや、見たとか見ないとかの印象やなくて、何か学内が騒然としてるといふか…もし誤りがなければ、いろんな事実経過から云えば、指導部に呼ばれてたね。

新原 生徒会の議長としての君から抑えが始まったんや。それは早かったんや。そうか、呼ばれた記憶ある？

久下 あります。

新原 だから、向うもその辺が日和見やったんや。君ぐらいいかコンタクトできなかつたんや。我々をすぐ捉まえることができなかつた。我々はスーと逃げたんやから、君には接しやすかつたんや、それだけのこっちゃ。だから君から攻撃を始めた訳や。君は被害者や。間違いないと思う。我々は逃げて、平気で好きなことやってたから。

久下 まあ、被害者かどうかは別として…ごっつい太った先生で、現代社会を教えて、あまり記憶はないですけども、「先生方が御触れを出した。自治会も騒いでる。君は自治会から全学集会を要求されてどうするのか」という詰問やったと思います。

新原 君一人か？

久下 一人です。いろんな話の経過で、どういふのか、プレッシャーというのを感じたことは事実ですね、良し悪しは別としてね。

新原 プレッシャーについては、時間の経過ごとに云いたいと思うんだけど、あのプレッシャーはすごかつた。それはすごく面白いよ、

これは後で云いたい。時間の経過を追って云いたい。すごい話よ。

釜江 久下君にその話があったのは、2月3日だよな、きつと。分会の声明があつて、それに対する我々のピラをまいて、その日の昼休みに総会を開くというリードをして。久下 新原君は知ってるかどうかは知らないけども、その何日か後に、僕は1週間、学校を休んだ。

新原 逃げた訳やね、学校から。

久下 来たら「どうするか」と云われるから…僕はそのときは新伊丹に住んでたんやけども、道路をはさんだ伊丹のおばあちゃんの家へ寄宿した。

新原 分つた。僕は自治会の書記でしょ。にもかかわらず、総会の議長をやつた訳や。なんでやつたんか、今まで分らんかつた訳や、君がおらんかつたから、やつたんや。

久下 停学処分でもなんでもない。だけどはつきり云うて、来たら…

新原 それは君の抵抗や、間違いないくね。

久下 さほど強靱な精神の持ち主でもないし、ごくごく普通の高校生でね。僕はそのときにどうしたらいいかな、と思つたんです。これは逃げるが勝ちと。

新原 それぐらい、かなり緊迫した状況があつたね。初めてこういう声明を受けて、我々がすぐ対応してピラを作り、あくる朝、2月3日の朝一番から、私らずぼらやのに早うから来て、ピラをまいた訳ですよ。その日の昼時間に必ず総会するから議場に来いとね。講堂にね。勝手に我々が決めて、講堂に入れというピラをパーと配る訳。アピールは始めは政治性なしよ。今の問題については何か騒動が起きてるから発言せないかんのんちゃうか、我々の立場を表現せないかんのんちゃうか、というだけのアピールを出したと思う。とりあえず生徒たちを講堂に寄せることや。寄せんとなつたらへん。三分の一しか来えへんかつたら負けんねん。だから三人の知恵で、とりあえずこの闘いをなんとかせないかんとね。結論は決まつてるん

だよ、動評反対というのは。(笑)

久下 動評反対は誰から起つて来た？

北野高校分会の誰がタッチした？

新原 してない、誰もタッチしてない。

肥塚 ちょっと、動評なんていう言葉も知らない若い同窓生のために、どうして僕らが動評反対をやつたのか、を…今、聞いていると、体



制派に反対するだけのよう

に聞こえるよね。そやなくて、もっと根本的なものがあつたと

思う。それが若い同窓生諸君は分らんだろう。動務評定という言葉も知らんやろ。

新原 僕の場合は台湾からの引き揚げ者ですから、戦争への恐怖というのがあつたわね。向うでは金持やつた、物を持って、戦争のお蔭で貧乏になって、大阪へ流れ着いた訳やからね。僕の場合はそれだけでもう、反戦ですよ。

釜江 当時、社会の先生とよく授業中に論争したのを覚えてる。ロシア革命の評価をめぐって、僕は、「それは社会の進歩のためだ」と云うと、向うは「革命のために沢山の犠牲を出した」とね。そういうふうな会話のやりとりをしたことを覚えてるけども。僕にはそれほどそういう思想を持つ基盤というのはなかつたけれど、ただ書物から得た知識でもって、自分自身がそういう思想を持つに至つたということが一つはあると思う。北野高校に入って最初の林校長先生の入学式の挨拶で「我々は君たちを一人前の紳士淑女として扱う。それが北野の伝統なんだ」という話を聞いて、僕はそれにも非常に感動して、こういう高校生活の中で、自分自身も青春をエンジョイしたいという意識もありました。自分自身の思想の目でもって見た場合に、動評という、人が人を管理するというのは許せない。それと、校長先生は体制派だったけど好きだと、いまだに評価してるんですけどね。我々は組合側の先生方と特にそういう意味でのコンタクトはなかつたし、むしろ組合

側の先生方は我々に、運動するな、生徒は関係ないんだ、というような態度を示されていたような印象があるんです。僕はそうであっても、なんとなく組合側の先生方のほうにいろんな意味で親近感を持ち、それは思想的なものとは関係なくね。だからそういう意味で、声明が出されたということでそちらのほうに動いたというのもある。元々、新聞とかで読む政治的なバックグラウンド、僕自身の思想の色眼鏡で見て、これに反対しなければいかんもんだ、という意識がずっと前からあって…それは人が人を管理するものであり、そして管理して行くことで日本の権力の意志が貫かれる。だから、そういうものには反対しなければいかん、ということでした。ある意味では、リベラルな意識……

**肥塚** しかし、それは林さんにもあったんじゃないかな。

**久下** あのね、一点質問があるのは、君らの側から見て、先生方で体制派と反体制派というのは分った？

**釜江** それは分らなかった。分らなかったけれど、指導部は明らかに。逆に河原さんらは、授業中にはそういう思想的なことは云わないんですよ。河原さんがいつも云うのは「私のささやかな幸せ、人生の幸せ」という形で、ものを表現される訳ですよ。それにものすごく、僕は感動を覚えました。とにかく授業中に、先生が勤評問題を僕らにアピールするというようなことは全然なかったね。

**肥塚** 直接的にはなかったね。まあ、当時の実感を云えば、とにかく我々にとって良い先生というふうな先生がベケを食らうんではないかと。だから直接的には、勤評は教員の問題だけど、やっぱり教育を受ける生徒の問題だ、という論理やった訳ですよ。今の学生から見たら全然分らんと思うけど、我々昭和16年生まれで、戦後のいわゆる民主主義教育を受けて、特に僕の場合だと中学のころなんかはいい先生とかそういう先生の影響を受けてるし、世の中全体の流れ

がそうだったから、当時、勤評に賛成するなんてアホとちゃうか、反対するのが当然やと。今から思えば、どんな職場でも勤務評定なんていうのはないのがおかしいしね。教員の組織もあまりに横社会すぎて…研修やら、相互に評価し合ったりとか、自立的にやれるんだけど、必ずしもそうではないというか、組織である限り、縦の面というのは絶対ないしね。横ばかりでは駄目だしね。当時の世の中の風潮やそういう戦後の民主主義教育を受けた高校生から見たら勤評に反対するのは当然であって、ただ実際に反対する行動に出ないのは個人的ないろいろな限界があるにすぎない。

**新原** 我々はこの総会を決死の思いで4回も開いたんだよ。4回目でやっとこさ、たった一つの決議、七村三ぐらいで「勤評に反対する。校長は勤務評定書を府教委に出さなくて」というだけの声明を。たったそれだけの声明よ。その声明を作るために、我々は自分の首を賭けて、4回開いた訳や。ものすごい弾圧を受けながらよ。ただそれだけの声明よ。それが決議された、七村三で。それだけで、僕らは満足してる訳よ。

**久下** ミスリードしたらいかんよ。

**新原** なんで、ミスリードやねん？  
「学園を平静に戻すためにも、校長は勤務評定書を出してくれるな」というだけの、ただそれだけの声明文よ、我々の出したんは。それが処分問題になった。4回の命賭けた闘いを我々三人は指導部とやって、やっとこさそれだけの声明を作った訳よ。それを釜江が校長室に持って行って読み上げた。それを校長は神妙に聞いた。そして、その声明文を受けとった。その後か前か忘れたけど、清水谷の桂という先生が、大教組のね、日にやけて真っ黒の顔したすごいのが乗り込んで来て、校長室を占拠した訳よ。そして「自治会を呼べ」という訳や。三人行ったと思うよ。「お前ら、何を云われたのか」と聞く訳よ。だから「私たちは、

ある先生からしよっ中、脅迫を受けまして、いつでも首にすると云われました」と。「ほんまか。首にすると云われたんか、そいつを呼べ」と云いはった。で、先生が来たんやな。桂さんは「今、子供たちに聞いたが、生徒総会を開いたら首にすると、お前は云うたんか」と云う訳や。

**釜江** 首にするというのは、退学にするという意味だね。

**新原** そうそう。そしたら先生は、「は？私はそのんこと云うてません」と。「いや、今、子供から聞いた。何回も自治会室に行って、首にするとえらい脅迫しとるやないか。ほんまか」と云うと、「いえ、私はそんなん云うたことありません。なあ、新原君、そんなこと云うてへんな」と云う訳よ。(笑) おれ、直接に受けてる訳や授業をね。点数ええの、ほしいやん。(笑) 中途半端な気持ちになって、「はい」と云うてしもた。そしたら桂先生が「そうか、云うてへんのか、そら、そうやな。子供たちが真面目に悩んで、生徒総会を開いて、勤評をどうやって考えたらええか、という討議の指導の立場をとってる人間を脅迫することは、指導部はせんわな。お前、云うてへんな、よし、分った。お前はえらい」と云うて帰った訳よ。校長室を占拠して、校長先生の腰かけにすわって、足を投げ出すんやからね。(笑) ほんで「そいつを呼べ！」やからね。組合と権力の側とはこんなもんかと、びっくりしたね。(笑) 完全な凌ぎ合いや。でも完璧に負けとったね。どうしようもない。子供の前で涙流さんばかりやから、指導部の先生は。

**肥塚** 桂さんというのは、高教組の委員長か副委員長してたね。

**新原** この闘いの終焉は、勤務評定書が府教委に出されるかどうか、というのが勝ち負けの結論ですよ。分会の先生方は、勤務評定書が校長室の大金庫に取まってるって信じてたね、おそらく。勤務評定書を提出する期限というのがあったわね。3月の何日か知らんけど…勤

務評定書が提出される一週間前から、金庫に見張り番がつかますわね。ついたはずですよ。分会側がつけたはずですよ。もし校長先生がおられたら、3日か4日、軟禁状態におかれたと思う。出られても、誰か付き添いがあったと思うね。ところが勤務評定書は現実に出された訳でしょ、府教委にね。勝敗というの、安保闘争でも批准されたときが負けたときだよ。闘争はそれで終焉。だから勤評の闘いも、それが出されるかどうか終焉の時期だった。後日の闘いがあるかも分らんが、しかし先生方は現実にあれて終焉した訳ですから。私から見たらね。勤務評定書はどこにあったのか、どうしてそれが持ち出され、府教委に持ち込まれたか。その内容はどうであったか。それには非常に興味を持っていた。

**肥塚** 興味はあったね。あったけど、結果として、どうでもいいような気がするんだよ。というのは、政治のやりとりのせいだから。今となってはどうでもいいことやと思いますよ。しかし当時は、校長でありながら、出さないで処分された校長もありますからね。

**新原** 17、18の少年はそういう意見は聞けないね。もし、あの分会がその程度の気持で闘いの終焉を予想していたとしたら……

**釜江** それなら、やる訳ないじゃない。

**肥塚** ハンストまでしたんやからね。

**新原** 軟禁状態から校長先生が脱出して、実は自分の官舎に置いていた勤務評定書を持ち逃げした。便所から逃げたというのは本当かな？ 学生時代にほかの先生から聞いたんだけどね。

**釜江** しかし、校長先生は本当のことを云って欲しいね。本当はどうであったのかを……

**久下** 校長は洒落た人ですよ。ほんとに洒落た、ロンドン何とかという感じの人ですね。

**釜江** 処分問題に移るけど、僕自身は向う見ずだったんで、処分するならしてくれと、それは僕にとっ

て、一番深い結論だったように思うんだけどね。それがなんとなくあやふやな形で終ってしまったんで……結局、処分は受けずに終わった。当時聞いたのは、組合側の先生が生徒を煽動したという形で全責任をかぶったと。しかし、我々は煽動された訳じゃないし、我々の考えで動いた訳だし、その結論が僕にとってはものすごく不満でね。組合側の先生が我々の責任をかぶって処分を受けたという後ろめたさがずっとあったんです。

**新原** 先生方はね、その辺をものすごく隠した訳。隠して、隠して、隠しまくった訳や。証言しようとはしない。最近初めて、それを聞いた。全員訓告になったらしいね。訓告というのは処分のうちに入らないらしい。だから誰も処分なしよ。組合員全部。校長先生が「いけませんよ」というただけのことやったんや。

**釜江** それはある意味で、北野のカラーにあったいい結論だと思えますね。

**新原** 北野のカラーというよりは、当時の政治情勢の無理だよな。

**釜江** 結局、政治のアホらしきというのを、校長先生は知っておられたと思うね。だから、結果的に、訓告で終結したんだろうね。

**新原** しかし、自分をどの立場に置くかというのは一つの選択やと思う。選択には非常に勇気があるさ。立場の選択をしたら、そのまま自分の願望とかを殺して生きていかな、しゃあない訳やね。どっかで自分の立場を妥協すると、窮屈な生き方しかできんようになるよ。しかし、正直に生きはった先生もおったと思うよ。

**釜江** 僕自身にとっては、一つの青春だったと思うんだけどね。ただ、さっきも云ったように、深く処分を受けて、自分のやったことに対するそれ相応の処分を受けて、納得して終焉したかった、という意識がずっとあるんです。ところが、それがそうじゃなくて、うやむやな形で終って、フラストレーションがずっとあったということです。

しかし、今日、北野は北野なりの解決らしい解決をしたんだということ聞いて、ちょっとふつ切れたところもありましたね。

**肥塚** 相変わらず、非常に純真だね。僕はやっぱり、処分はされたくなかったなあ。将来のことを考えてね。さっきも云うたけど、当時の状況からすれば、勤評に反対しないのは事情があって……今から思えば、管理者の立場も分かるし、微妙なところがありますけどね。

**新原** でも、面白いことやって来たよ。君は自治会と新聞部との間にいて、何を考えてた？

**久下** いろんなことがあったけど、まあ、いいじゃないですか。

**新原** 僕はものすごく燃焼したな。

**肥塚** 我々は燃焼したなあ。

**新原** 新聞記者を放り出したときも、燃えて放り出したもんね。学生の顔を写すテレビカメラマンを。みんなが騒ぐ、おれは頭にきて、おっさんをつかまえて引き摺り出したんや。自分の損得、社会的立場、将来性なんて関係あれへん。おれはここで燃えよと思たら、ワーと行くんやから。そんなことも経験できた高校。すばらしい高校。

**久下** 水を差すようやけど……いいお父さんになって、子供たちを北野にやりたいと思うたのは当然か。

**新原** そのとおり。

**久下** 実はね、新原君の息子が北野のラグビー部で、卒業して大学の進学したらしいけどね。釜江君の系累は、秀才の系累やから出て来るでしょう。取って僕の意見は云わずに終ろうと思ったけど、やっぱりおれの子供たちは北野に行ってほしいね。

## 出席者紹介

かまえてつろう 勤評当時の自治会副委員長。東大理学部卒。現在、大阪市立大学教授。

くげ としひこ 生徒議会議長。慶大法学部卒。会社経営。

こえづか としあき 自治会会計。京大工学部卒。府教委主幹。

にいはら ともひろ 自治会書記。早大第1法学部卒。会社経営。



## 座談会 桜守

### 故 笹部新太郎翁を偲ぶ

出席者 久野友博 (54期 桜研究者)  
北野栄三 (61期 毎日放送  
常務取締役)  
司会 山本次郎 (62期 弁護士)

山本 実は毎年、桜のシーズンになりますと、北野の大先輩であられます笹部新太郎さんのことが、いわゆる「桜博士」とか「桜守」という名で新聞に載ります。笹部さんは、昭和53年の12月19日にお亡くなりになったそうですが、お亡くなりになって10年間も、こうして毎年、新聞にお名前が載るといふことは、後輩であるわれわれとしても、もっと笹部さんのことを知らないといけないんじゃないかという感じがいたしまして、今日は笹部さんとお親しかったお二人においていただいたような訳です。

久野 特に、北野さんは、長い間、「笹部番」としてお付き合いして来られましたからね。笹部さんが真に求めておられた桜はどのような方向に行くべきかということ、掘り下げたいと思います。

山本 お二人は、長年、笹部さんの身近かにいらした方々ですし、笹部さんについての語り部のようなお立場におられます。何分にも、司会者がまことに至らないんですけども、泥縄の一夜づけで、水上勉さんの「桜守」を読ましていただいたり、お二人から頂戴したパンフレットなどを拝見したんですが、まず、お二人が笹部さんとどういうお近づきであったかということ、初めにお伺いしたいんですけどね。

久野 私の父が北野で、笹部さんの一期上の卒業生です。

山本 笹部新太郎さんは明治37年、日露戦争が始まった年の第17回のご卒業ですね。

久野 笹部さんは早くにお母さんを亡くされてね。私の祖母が女

としては気丈な人で、うちが北野の梁山泊みたいな形で、いろんな人が来られて、その中の1人です。そういうことと、父が東大の医学部、笹部さんが法学部で、東京の下宿なんか一緒にいるときがあり、或いは東京での北野の同窓会的な集まりがあったそういう時分からずと長く、また、卒業以後も友人であり、医者としても笹部さんの体を診ていたということでごさいますね。父が昭和18年に亡くなりました後は、北野を出た叔父、父の弟になる二人の医者がずっと「笹部係り」みたいなことで、最後には私の弟が医者として笹部さんの健康を守ったんです。父との交流のお蔭で非常に可愛がっていただき、亡くなるまでお付き合いさせていただきました。

山本 昨年春の新聞で見たか、久野さんが「笹部桜」を何十本か西宮市に寄付なさったことが出ておりましたね。

北野さんは、さきほど「笹部番」という表現があったんですけど…

北野 私は後輩として先輩をお尋ねしたというより、新聞記者としてですね。毎日新聞の社会部の記者を長いことやっております、社会部記者として笹部さん取材したというのが最初なんです。

山本 いつごろですか。

北野 初めてお会いしたのは、昭和30年ごろかな、という気がしますね。春になると、花だよりとか桜の話題を毎年書く、大阪では毎日新聞でも朝日新聞でも「笹部さんとこへ行けば話あるで」ということだったと思います。やっぱり、桜を書く人は笹部さんを知らんと

書けなかった。それですから、私なんか社会部の記者として、桜の記事を書くので笹部さんに会った。それが、そもそも最初でしたね。それと笹部さんは桜の研究者であるとともに、大阪を代表する文化人でもありましたね。上方の芸能に詳しいとか、芸能を語る場合に笹部さんの名前が出て来る。たとえば私は、昭和33年ごろ、大阪の人を毎週1回1人づつ紹介した記事を担当しましてね。「大阪の顔」というんです。毎週1回という、年で50人です。大阪の50人を選んで、毎週書いた訳ですけどね、当然に、笹部さんが入って来る訳です。そんなことで、お会いしたときは、大抵、取材でお会いするんですけども、そのうちに書いたのを記事にするだけでなく、この人のことをもうちょっと知りたい、さらにはこの人のことをもっと世に知らせにやいかんという考えが出て来ました。呼ばれたら行くし、暇そうだったら、お尋ねするということですね。木幡町のお宅へも伺ったり、大体大阪クラブが多かったんですけど、晩年は岡本のお宅へ行きましたね。そのうちに、北野の先輩・後輩というところでも、可愛がっていただいたように思います。

山本 この当時、北野さんがお書きになった毎日新聞を見ますと、「よい桜というものは、お嫁さんの条件みたいだ」という笹部説を御披露なさってるんですけどね。

北野 笹部さんの基本的な考え方というのは、「よい桜というのは気品が大事である」と。そういうところから、笹部さんが終生言い続けられた「ソメイヨシノみたいな桜は、桜じゃないんだ」というところに行くんです。

山本 ソメイヨシノというのは、ちょっと造花のような感じがしますね。どっちが本物で、どっちが造花か分かんところがありますね。

北野 「人間も偽物と本物がある」という考え方を、あの人は持っておった訳です。本物の桜が分かんような人間は駄目や、と。あの人

における桜というのは、人間でもある訳ですね、文化そのものだと。そういう意味で、笹部さんというのは、特別な思想を体で表わしたような人じゃないかな、という気がするんです。

山本 ソメイヨシノを嫌悪する思想の高さといえますか、好みの厳しさといえますか……われわれ普通人は、ソメイヨシノであれ何であれ桜の花であればそれでも満足で酒が楽しい、心がうきうきして来るというふうな庶民そのものの感覚を持っていますが、そりゃまあたしかに、山行きのとときか、野原の片隅などで、山桜や里桜が咲いてますと、ソメイとは違うというふうな、そういう印象はするんですが、その程度ですね。

北野 明治百年のときに、「日本の文化、この百年」という週一回の特集記事を出しましたときに、桜も一回やったんですよ。明治以来百年の桜の問題をね。そのときに笹部さんのことを中心に書いたんです。これは一冊の本になって、「明治百年」という本になっております。その中で、結論的に僕が書きましたのは、「趣味が高いか低いかというのは、国民性というもののレベルを表現する」というカントの言葉を引用して、つまり、桜においても、いい桜が判るとい国民こそ、高い文化を持つておるんだ、と。笹部さんが、桜に託して云い続けたものは、高いもの、つまり本物を認めにゃいかんと。その立場から云うと、ソメイヨシノは偽物なんだ、と。偽物を喜んどうような日本人は偽物なんだ、と。日本人は偽物になったらいかん、と。本居宣長が愛したように、本物の日本は本物の桜に代表されておるんだ、と。しかし、明治百年の歴史は、残念ながら、桜というものを滅ぼして来たんだと云って、笹部さんは亡くなった。というのが、私の解釈です。

山本 ところで、ソメイヨシノというのは、ものの本を読むと、交配種なんですね。

北野 そうです。濟州島の桜とも云

われていますな。

山本 オオシマザクラとエドヒガンとの交配種らしいですね。いつごろ、できたんですか。

久野 江戸の末期です。東京の染井という植木所、関西の山本みいたいところですね。染井村というのがありまして、その植木屋が作り出したんです。

山本 今は大きな墓地になっております。染井はね。

久野 一つ、いんちき性があるのは、売り出しのときに「吉野桜」というて売り出した訳ですね。吉野山の桜とは似ても似つかん「吉野桜」というて売り出した。植木屋のやることですから商売第一で、あたかも吉野山にあった桜のような名称で出したということが、一つのいんちきと云えると。さっき云われたんですけど、雑種ということは原種同士を掛け合わせたもので、そうじゃない他のもんが掛かる場合には、変種じゃないかと思えます。雑種の、いわゆる雑種優勢といえますか、強くて成長も早い、病害虫にも強いということが、ソメイの性質の中に入ると思うんです。で途中で、東京の学者が「これは吉野桜ではない。吉野の桜じゃない」と云うたことで、染井村にできた桜ということでソメイヨシノということに変更になったということです。山桜なんかは、葉が先か或いは同時に出て、散った後は葉がきたない萼とかの上を覆い包む、ということがあるんですが、ソメイヨシノという桜は先に花が咲くもんですから、萼の垂れ下がった状態が非常にきたない訳ですね。笹部さんは「女郎桜」と云うて、馬鹿にしておられたんです。(笑)

北野 笹部さんは毒舌でね。趣味の低いものを軽蔑されたんです。それを極端に云いすぎたんですね。

それで反発を買ったと思うんです。

久野 とにかく、云いたいことをずげずけ云われるもんやから、非常に敵が多かったと思うんですよ。

## 笹部新太郎語録

一植樹はどうか終ったが、こうした経緯では無事に成育すべくもない。何でも盗み次第の時代だもの、ちょっと手に入らぬ本場の標置綱や輪丸太が無事であろう筈もなく、序でに苗木もへし折られてしまってます全滅というところである。50本に1本つつの成木の桜の数の誤算から200本ばかり余ったのを途中の橋畔の斜面に集めて植付けてあったのは、幸いに何年か無事だったが、終戦早々のころ、薪に伐られたと聞いている。桜あわれ。(権原街道沿い一万本桜)

山本 たしかに、拝見しましたパンフレットやいろいろな文献を見ていますと、学者とか、お上、官僚、それからいわゆる低俗の連中に対する舌鋒がまことに厳しい。(笑)しかし、おっしゃっていることは正論ばかりだと思いますね。

北野 正論なんですよ。

山本 正論すぎるので、われわれが現在読んでても快説を叫ぶようなことが多いですね。水上さんの「桜守」では割とおとなしく仏さん風に書いてある。われわれ読者が知りたいと思うようなところがぼかしてある。これはやはり、まだ笹部さんが御存命でしたから、作者が大分、手加減したところが感じられるんですが、笹部さんの生の原稿はかなり厳しいですね。

久野 ソメイヨシノの花が先に出るというのがね。ヒガンザクラもそうなんですけれども、これは花が小そうて散った後はきたないという感じはしないんですが、ソメイは花が大きいもんですから、特に散った後がきたないんですね。昔から和歌とか連歌、俳諧、狂歌、俳句とかで、昔の人が愛して来た桜というのは、花だけ見て喜ぶような趣味がなかったんですね。やっぱり、花の出る前の葉の出方、黄味あり、赤味あり、青味ありと、葉が出る良さも味わって来た訳です。笹部さんが云われたんですけど、「今このソメイヨシノを見たら、「花のもとにて春死なむ」と云うた西行法師が、これが桜かと驚いて

半倒してしまうだろう」というふうなことも云うておられた。

山本 勿論、西行法師とか源氏物語とか、或いは本居宣長の時代は、山桜ですね。

北野 ソメイヨシノはない訳ですね。私は笹部さんのことは、そのとおりだ、と、殆ど解る訳ですけど、……「ソメイヨシノはいかん」と云い続けて亡くなられたんですが、そういうことを全然、笹部さんから聞いてなかったら、ソメイヨシノでいい、きれいな桜やないかなあ、と思うんですね。僕は、笹部さんが偽物はいかん、本物を大事にするという考えが大事だと云われたと思って、そういうふうに感じとってるんですね。

久野 私は思うんですが、ソメイヨシノにはソメイヨシノとしての美しさがある。もし、ソメイが他の品種と同程度の普及率であれば、笹部さんもそれなりに美しさを認められたでしょうが、人が植えた桜の90%以上がソメイヨシノで、古来の優秀な山桜が失われて行く、悪貨が良貨を駆逐するというようなことが桜の世界でもまかり通り、ソメイヨシノが今や日本の桜の規格統一品の代表選手となっている状況では、自分がソメイヨシノのことを一言でも褒めればどうなるのか。良き山桜を護ろうという危機感、使命感が「ソメイヨシノは悪い」「日本の桜は亡びる」と叫びつけさせたのではないのでしょうか。全国の桜を見て歩き、また、良い桜が切られてソメイヨシノに取って替えられる過程を見て来られた笹部さんにして、初めて云えることだと思います。

北野 笹部さんは「人間というものは、いいものが解らんといかんぞ」と云うたと思うんですね。それを桜に当てはめれば、山桜は気品があるが、ソメイヨシノはパッと咲いて華やかだが、それだけだと。しかし、本物は気品があると。

久野 私の聞いた話の中に、骨董屋は弟子入りした人に本物を見せて勉強させ、と。美術館に行かして、本物ばっかしを見せる、と。それ

を見続けて、これはいいもんだということを目にたたき込むことによって、贋物が分かるようになるんです。觀賞眼というのは、いいものを見る訓練で養われると。

一でも、私は常に考える。大衆が喜んでいけるのなら、すべてのことあるがまゝにうっちゃっておくことゝなる。向上もなければ善導もない。大衆によさを解らせるか、もし山桜に足らぬ節がありとすれば、この山桜を基本として染井に優る新品種創造の工夫を凝らすべきであろう。

山本 「桜守」の始めの部分で、ちょうど福知山線の武田尾の駅のトンネル二つ越した上の山に演習林があったそうですけども、その桜は、今、どうなっていますか。

久野 それまで5人以上の園丁を毎日常雇いにして、桜の手入れとかいろいろやらしてた訳です。敗戦後はいくら金持でも自分の生活を守るだけで、人の給料まで出せなくなった。ことは地主で、地代に頼っていた笹部さんにしてみたら、地代家賃統制令とかがあって、地主が一番災難を受けたような時代ではとにかく人を雇える状態やなかったんです。だから、それ以後は戦後40年間、手入れしていないという状況です。

山本 そこで、笹部さんの<sup>お母</sup>衣ダムの古木の移植の話とか、大事なエピソードがございしますが、そのお話に入る前に、笹部さんの生きざまの原点とも云えるエピソードですね。北野・七高・東大法科という、いわゆるエリートコースを歩まれたのに、就職はなさらなかった。……北野さんのお書きになったものなんかを見てみると、笹部さんと同じ北野の17期には、古田俊之助さんという住友の総理事がおられますね。総理事というと住友全社が一番偉い、住友の総理事大臣みたいな人ですな。

北野 そうです、そうです。

山本 古田さんのお名前は、最近でも新聞に載りますが、その学友同士が、一人は日本一のサラリーマンになり、一人は就職をやめたと。

北野 とにかく、笹部さんと古田さんは親しかったんですね。それが対照的な道を。

山本 就職しないなどという、今の時代の人とは、結構な身分やちゆうふうなことで、一言で片付けますね。しかし、笹部さんの生きざまは、一言であれ幾万言であれ、簡単に片付けられるもんかどうか。就職なさらなかったのはどういう訳ですか。

久野 それはお父さんの意思ですね。

北野 簡単に云えば、笹部さんのお父さんが、月給取りになると人に頭を下げないかん、理由なく頭を下げるような商売につく必要はない、と云われたと。それがあの人の以後を決めたというふうになっております。

久野 一つは、家柄の自負からも来てる訳ですね。先祖は源氏の四天王の中の一人で、ト部何某というんですね、ト部から篠部になって、今の姓になってるんですけどね。武士の本流なんだと。

山本 夏目漱石の「坊ちゃん」なんかでも、坊ちゃんが「俺の先祖は、多田の満仲だ」と云うてるところがありますね。(笑)

久野 源氏の主流だったという誇りを持ったお父さんの教育で、「何も頭を下げて行く必要はないだけの資産をお前に残してやるから、まっすぐ進め。頭下げんぞ進め」という、お父さんの教えを守って来られたということだと思いますね。

山本 それで桜の道に足を踏み入れるようになったきっかけというのは、どういうことなんでしょうか。

久野 それは、歴史的に見て日本人の一番心の底に残る、愛するものを研究してみよう、ということなんでしょうね。

山本 それは大学を出た位ですか。

久野 いや、在学中。

山本 在学中からですか。そのときに、何とかいう偉い先生に……

久野 和田垣謙三さん。

山本 和田垣謙三さんは法科の先生でしたわ。

久野 法科ですが、後の3年生位になってから講義を聞いたことがあ

るというふうなことでね。とにかく、桜に取り組もうということで、写真機を買って、昔ながら写真屋みたいな顔を入れて撮るやつで、とにかく桜を撮りまくった。

北野 そこへ和田垣さんが見に来た。それで話が弾んだ、と。「君は法科の学生なのに、何しとるんだ。植物ばかりやって」と。「法科の学生が植物やって悪いのか」と喧嘩して親しうなると、こういうことですね。そこで、和田垣さんが「君は、本当に桜に一生を賭けるんならば、法科でいいのか。理科に行かんでいいのか」という話をしたんだそうですが、「それは違う。法科であろうと理科であろうと、桜の意義ということを生業の仕事にしておるんだ」と。和田垣さんみたいな人が出て来たために、ますます桜に賭ける意志が固まったんやないか、と僕は解釈しますけどね。

久野 「同じ桜を研究するんであったら、日本一になってくれよ」と云われたということですね。

北野 あの人、理科で桜の一枚一枚を顕微鏡で見て、ということをするつもりはなかったんですね。

山本 気品は、顕微鏡では分析できませんからなあ。

久野 東大では理学部が植物をやったんですね、今でもそうですが、三好学という博士、その当時、桜博士と云われた人ですけど、そういう学者に対して、笹部さんが云うた言葉が「そういう人たちが図形の周辺を廻って行くんやったら、わしは対角線に行く」とね。

北野 植物学者というものを笹部さんは軽蔑した。軽蔑する根拠があったんかどうかは別にしまして、「植物分類学者にはなるまい。植物を分類するだけやないか」とね。

一ところが、この桜が遠慮なくいえば国家のものとなり政府のものとなって以来たゞ衰亡の一途をたどっている。危い。天然記念物調査委員などという人たちが見識にも等しい幹の太さや花の寸法を克明に勘定しているうちに桜は日に日に減っていく。

山本 桜の花ばかりやなくて、何とか小町という、大変な美女と結婚なさったそうですね。

久野 子爵のね、酒井子爵の娘さん。

山本 山形の庄内藩ですね。

久野 ええ。向うでは庄内小町と云われてた人なんですけどね。あそこの藩は、幕末の戊辰戦争のときに朝敵になったとこなんですよ。貧乏華族でね。どういう経緯やったんかは知りませんが、婿さんのほうが全部支度をするという、支度を全部してお姫さんに来てもらうという形でね。なんぼ町人の大地主、金持と云うても、格が違いますんでね。ちょっと金権結婚みたいな形じゃないですか。

北野 恋愛結婚ではなかったんですね。(笑)

久野 そんなもんやありませんよ。この人の奥さんは、上野の音楽学校の声学科を出た人なんですけど。

山本 久野さんがお持ちになった御結婚間なしのお若いお二人のお写真ですが、奥さんは大変色の白い、目鼻だちの涼やかな美女ですな。ちょっとなまめかしい風情がありますな。これで上野の声学ですと大変でしょうな。それから笹部さんは、本当に実直なというか、一徹者の真面目な、無骨な、……奥さんは、モガという感じがいたしますがね。

久野 いや、笹部さんもおしゃれやったですよ。

山本 そりゃまあね、ほかの写真を見ますと、ハムレットが着そうな広襟のブラウスなんかを着てはりますからな。しかしですよ、お二人のこの写真から見ると、奥さんと比べると、笹部のほうが一徹な、むしろ純朴という印象。この写真だけのことで、そういうふうな感じがしますんです。「桜守」を見ますと「奥さんは早う亡くして、わしは一人なんだよ」というふうに竹部が云うんですけどね。

久野 戦後離婚されて、しばらくして奥さんは東京の伊勢丹へ勤めておられ、雨の日に傘さして歩いておられるときに、自動車にはねられてね。

山本 で、亡くなられたんですか。

久野 そうです。

山本 お子さんはないですね。

久野 ありません。

山本 家庭的には、あまりお幸せでなかった……。

久野 あの当時、小遣い30円か何かを、奥さん用にとってはってね。

山本 あの当時とは。

久野 戦争始まる前位の30円で、かなりなんと違いますか。月給取りでも、まあ大学出たら60円か70円ですが、そんなときに30円を奥さんの小遣いにね。だからフランス人形なんかを作って、展示会をやりましたからね。自分ではちゃんと、十分なことをしてはるつもりやったんと違いますか。

山本 さきほど久野さんが「恋愛ではありません」ということをおっしゃったんですが、言葉尻を掴まえるみたいですけど、笹部さんは奥さんよりも桜のほうを愛しておられたのかしら。

久野 結局は、僕もそうだと思うんですがね。これはちょっと笑い話みたいになりますけど、奥さんの名前が梅子さんなんですよ。

一岡 (笑)

久野 梅より桜を愛したんですね。

北野 私がお会いしたときはもう一人で住まれておったんですから、その辺のことは知らないんです。笹部さんと奥さんとの関係というのがどうであったか、本当はどうであったかということは、小説家の水上勉さんは非常に興味があるんですよ。興味があつて、一つの想像をしておりますよ。

山本 ところが、そこは「桜守」には書かれてない部分ですね。

久野 そんなもん書いてごらんさない、えらいことですよ。ものすごい怒られてね。

北野 水上さんが書く前、私は東京におったんですが、芸芸部の記者が来て、「水上さんとこへ行ってくれ」と云うんで、成城の水上さんのもとへ行ったんですよ。それで僕の書いた記事の話をしたんです。御母衣の桜の話とか、桜の園が消えたという話をしたんです。それ

だけでは小説にならるので、あの  
人なりに。本当は笹部さんという  
人間のことに小説家としてはもっと  
興味があったと思います。奥さん  
とのこととかいろいろね。やっぱ  
り、さみしいとは思いますが、  
一人の個人としては。あの人はあ  
の人なりの主義に生きた訳ですけ  
れども……。

山本 突き進んで、極めに極めた人  
ですね。まあ、形だけで見れば、  
就職もせずに、ということですが  
、就職以上というか、金銭のため  
、生活費のため、出世のためにし  
てることでない、それよりはるか  
に次元の高い、はるかに労苦の  
多い、情熱の大きさを必要とする  
ような、物質界の上に精神世界を  
打ち樹てようというような、そう  
いう執念なんですかね。

北野 僕の書いた記事の中で、こう  
いうことを紹介したんです。小林  
秀雄が、一べんか二へん会われて  
るんですが、「笹部さんは上方にし  
か生まれぬ人だ」と云うんです  
よね。つまり、大阪・京都を含め  
た上方の風土、伝統、歴史の中で  
生まれた人だ、という云い方をし  
はった。小林さんが笹部さんを真  
に理解したかどうかは、僕は判か  
らぬと思いますが、全部は判か  
ってないと思えますね。やっぱり、  
笹部さんを田舎もんだと見たんだ  
と思いますよ、小林さんとは話した  
ことはありませんが、「上方にし  
か生まれぬ人だ」という云い方  
の中には、上方に対する蔑視があ  
る。田舎の人やという考え方があ  
ると思う。

山本 今でも、東京にちょっとあり  
ますね。

北野 ただね、僕はそれも同じ記事  
の中に書きましたことなんですが、  
「上方のものは、彼らには判らん  
ぞ」と。けったいな人という云い  
方で書いたんですが、大阪には元  
々、けったいな人物が沢山おった  
んです。けったいな、という中に、  
非常にスケールがあるんですね。  
これと同じレベルを昔の歴史の中  
に探れば、木村葦堂という植物  
の研究家がおられますね。それから、

近いところに山片蟠桃さん。そう  
いうような町人の中に出た、表面  
は商売人であるけれども、表面か  
らは窺い知れない奥深いものを常  
に持っておった人ですね。それは、  
関東の常識からしたら、計り知れ  
ないものだ、と思いますな。上方  
を本当に理解しないと、笹部さん  
のことも理解できないと思うん  
ですよ。だから、東京の人では非常  
に理解しにくいと思いますよ。笹  
部さんがサラリーマンにならな  
かったということも、上方的な一つ  
の、笹部さんのお父さんの教えだ  
というだけでなくね。やっぱり  
関東の役人社会みたいなもの、東  
京では役人、官員の社会ですな。  
明治の末と云や、それは上下関係  
ですね。上方の文化は、やっぱり  
タテでなく横じゃないですかね。

久野 今、官員と云われたけど、も  
う一つ前の武士、徳川幕府の階級  
的な考え方というもんですな。

北野 つまり、そういう生き方はし  
たくないところから、サラ  
リーマンにならないという考えが  
出て来たと思います。

山本 だけれども、我が道を行くとい  
うことは、ものすごい自負ですね。  
自負と自信ですな。これは、サラ  
リーマンになるほうがやっぱり案  
かな。

北野 多分、そうでしょうね。我が  
道を行くためには、やっぱり財力  
がいりますわな。それが幸か不幸  
か、あの人にはあったということ  
です。

久野 財力があっても、つまらんこ  
とに費してる人もありますわね。  
一つの道を極めて日本一になると  
いうことは、やっぱり尊いこと  
やと思います。

山本 あまり時間もありませんので、  
二つの重要なことをちょっとお伺  
いします。まず初めに向日町の苗  
圃の立退き接収の話に簡単にお触  
れいただき、それから御母衣ダ  
ムのお話を伺いたいんですがね。

北野 ある日、大阪クラブへ「ちょ  
っと話がある」と云うて呼び出さ  
れてね。名神高速道路が数年  
後に出来上がるというときですが、

新聞を見ますと……、昭和36年  
4月1日、春ですな。ぼつぼつ笹  
部さんに桜の話でも聞いて書か  
なと思ってるときに、「ちょっと大阪  
クラブに来てくれ」と云うんで行  
ったら、「名神が走るようになった」  
と。向日町の苗圃の傍がみんな買  
収されてね。あそこに住宅を建て  
るとか、そういうことじゃなくて、  
名神の下に敷く土に一番適した土  
だったんですね、向日町の土がね。  
で、周辺がみんな買収されて、そ  
こを掘りおこして、名神の道路の  
下に敷いた訳ですね。現在の名神  
のハイウェイの下には、向日町の  
土が積まれとる訳です。笹部さん  
は売る必要はない、別に売りたい  
けれども、周辺から土を持って行  
かれると水が入って来ないで、桜  
が枯れると。僕は考えて、これは  
チェーホフの「桜の園」の話だ  
というふうにして、「桜の園が消える」  
という狙いで記事にしました。

久野 それはあなたの発想ですか。

北野 そうです。

久野 ええ見出しやったですわ。

北野 「桜の園」では、「俺の一生も  
すんだ。まるで生きてなんかいな  
かったようにすんでしまった」と  
チェーホフが劇の中で云う訳で、  
これを笹部さんの言葉にしたらいい  
と思ってね。つまり、「桜、桜」と  
云うことは、現代の時代に合わ  
ないというような、世の中が開  
発されて行くときには古いものは  
みんな切られて行くのだという、  
一つの象徴的な出来事だ、という  
ふうな狙いで記事にしたんです。

それからしばらくしまして、笹  
部さんと一緒に御母衣へ行っ  
たんです。電源開発の人が案内  
して連れて行ってくれたんです  
けど。御母衣ダムの前面に桜  
二本を移植して、ぼつぼつぼ  
つぼみが出かかって、それを見  
に行くというときで「一緒に行  
ってくれ」と云われて、行っ  
たんです。これは、御母衣の  
桜が、電源開発のために消え  
てしまった村の形見として、桜  
が二本生きたということですね。  
高崎達之助さんが笹部さん  
とところへ話を

持って来た訳ですね。これで、桜は生き返ったという記事を書いたんです。

この二つの話は対照的だと思うんですね。同じ年の記事なんですよ。一方は、道路を作って名神という日本の動脈と日本の国土開発のために、桜という古いものが無残に切り捨てられたという話。他方は、日本の開発のために東洋一のロックフィル式ダム、御母衣ダムというものを作ったときに、そこに住んでおいた人間の気持を代表するものを残そう、桜を移植することによって開発と人間の気持は両立するということを示そうと、高崎さんがそういうことを云った訳じゃないですけど、そういうことを象徴する出来事だ、と僕は解釈しましたね。片方は、開発のためには桜はいらんと。しかし、片方は開発しても桜は残せると。どっちの生き方を日本人は取るべきであろうか、ということを考えさせるような出来事やなかったかと思うんです。

一あなたがこの桜にそれだけの愛情をおもちになって私のところへいらっしやったのも何かの縁でしょう。ほぼ、400年もたっているのだから、この老桜を移植しても根がつかないかもしれないませんが、あなたが桜に対して、それだけの愛情があるのなら根がつかなくても、もともとです。あなたのように、老桜の命を助けようとした人を私はまだ見たことがありません。水没する村への挽歌として、私でお役に立つのなら、自分の人生の大きな記念として、全力を尽してみましよう。

山本 御母衣ダムの桜の移植のところは、「桜守」でももっとも感動的なシーンとして書かれておりますが、われわれも、人間の努力の尊さということ、人間の能力の無限さというようなものを感じます。樹齢400年もの桜の大樹二本を、湖の底に沈むべきところから湖が見える高台にまで持ち上げたという話ですね。ここに写真がございしますが、どれ位の大ききだったんでしょうか。

久野 高さ21メートル、幹の周囲が6.66メートル、重量が42トンと38トンということになってます。

北野 光輪寺という寺にあったのは、高さ20メートルとも書いてますな。

山本 問題は、樹齢400年もの桜を植え換えてそれがつくかどうかということですね。学者はみんな、反対したというか、嘲笑ったと。

北野 まあ、前例がないというのはみな警戒しますからね。

久野 もう、つかんやろと。とにかく、桜はつきにくいんですわ。移植する場合、大きくなればなつたでね。若樹の間はいいんですわ。400年の桜を生かし得るとするのは、なんぼ桜の神様の笹部さんでも、自信ないですよ。高崎さんの意思としては、湖底に沈むべきものを上まで持って行って、人々のためにしようという気持があった。それに笹部さんは自信はないけど、最善の努力はしようということで引き受けられた訳です。学者なんかは、生きた桜を動かすというのは、そんなもん、全然、知りませんしね。

北野 学者は判断できないでしょうね、前例がないと。植物みたいな学問は。

久野 逃げてる訳ですね。人が「やる」と云うたら、「どうせ、枯れるやろ」と云って、遠見の見物で馬鹿にしてた訳です。これはやっぱり、高崎さんと笹部さんの共同事業ですね。「なんぼかかってもええ」と高崎さんは云われた訳ですね。ここには、平家の落武者の部落というのがあったらしいんですが、それだけに長年の間の土地に対する執着心というのが村の人たちにあつて、反対運動も非常に強かった訳ですが、それをなんとかして押えて、みんなに満足してもらおうということですね。

北野 高崎さんにしたら、今おっしゃったように政治的な意味があつたのかも知れませんね。反対運動を押えるためにそういうふうにしたんだと云えないこともない。しかし、今はそういうことのできる政治家も企業家もいないでしょ。

だから、高崎さんはさすがにスケールのある人でしたね。しかも、同じようにスケールのある笹部さんとの友情関係によってやっと出来た。

久野 とにかくね、40トンもの桜二本を持ち上げる工事自体も大変なことですけど、活着させて行くために後の指示が非常に重要なんです。ところが、二本が二本とも、モリモリ元気を取り戻して太い新芽を出し、花を咲かせるようになったので、これまで立退きを快く思わなかった人たちが、桜移植の由来を記した、堂々たる碑を建てた。人の力で救えることなら、見殺しにしないで、全力を奮って残す、の一念です。とにかく、桜を愛する情熱が、笹部さんを何事も恐れさせず、自分の信ずる道に進ませたものと思います。

山本 最後に、日本一の「笹部桜」について、久野さんから締めくくりの言葉を。

久野 さきほどからもお話に出ていましたが、笹部さんの桜研究のもっとも大きな目標は、品位に欠けるソメイヨシノの氾濫に抗して、山桜を基本としたソメイヨシノに優る新品種を創り出すことでした。その目標とする条件は、次の6つです。(1) 苗木の成長が早いこと (2) 風雪など天災に堪えること (3) 喬木、巨木になる可能性のあること (4) 花期におくれぬこと (5) 花に気品のあること (6) 嫩葉の色や葉の形のよいこと の6つです。

この桜を創造するために、全国の長寿で優秀な桜の実生を行って、戦前、この条件に合う品種の創出に成功されたんですが、戦争中これらの苗を不幸にも失う結果となり、望みが絶たれたかにもえました。ところが不思議なことに、桜の神様が笹部さんの永年の桜に対する労を多とされたんでしようね。昭和34年、笹部さんが72歳のとき、大阪から神戸へ転居のさい持ち運んだ種子がごぼれ落ちて、庭の真中に芽生えた。

この桜が異常とも云えるほどの旺盛な成長力を発揮し、どんどん

成長して、5年目に花をつけた、これは実に稀有なことです。花は多少八重がかり十五辨くらいの優美な、まことに品格ある花でしたので、お喜びはそりゃ大変なもので、日本一の桜であると自慢しておられました。そして直ちに、優秀な花の桜を数本植えられた。これは桜が自家不稔性（自分の雄しべ雌しべでは結実しない）であるためで、他品種との自然交配によってこの桜の旺盛な成長力を受け継ぎながら花に変化のある優秀な

子桜を生じさせるためです。この桜の育成に18年間、全力を尽され、この桜の下で昭和53年91歳で亡くなられました。まさに西行法師の「願はくは花のもとにて春死なむ」を地で行く桜男の生涯でした。この「笹部桜」がどんなものかを知りたい方は、旧笹部邸（現在岡本南公園、通称桜守公園）へ行かれるとよく分ります。場所は阪急岡本駅かJR本山駅下車5分です。花期は4月10日頃ですが、地元桜守会の戸沢正雄さん（六稜63

期）に電話で問合されるのも一法でしょう。笹部さんはこの桜を生み出したんですが、本当はこの桜を母体として色々の名桜を生み出し、東京生れの下品なソメイヨシノの全国制覇に対して関西生れのこの桜で巻き返しをはかりたかったんじゃないでしょうか。私もこれらの桜の全国普及を志してはいるんですが、六稜の同窓の中から笹部さんの遺志を継いで下さる方々の出現を願望して、締めくくりに言葉とさせていただきます。

# 大学合格者一覧表

(62. 5. 2 現在)

国立	男	女	計	山口大	1	1	日本大	1	1	神戸女子大	4	4	東京大学	2	2	
北海道大	10	1	11	愛媛大	1	1	日本獣畜大	1	1	神戸女子薬大	16	16	国立総合理研	1	1	
東北大	19	3	22	高知医科大	1	1	日本女子大	1	1	松蔭女学院大	2	2	大阪府立看護大	2	2	
茨城大	4	4	8	九州工業大	1	1	法政大	2	2	親和女子大	1	1	大阪外語専門学校	1	1	
筑波大	4	4	8	熊本大	1	1	武蔵工業大	1	1	兵庫医科大	2	2	国際外語専門学校	1	1	
宇部宮大	1	1	2	鹿児島大	1	1	明治大	1	1	武蔵川女子大	9	9	大阪女子経済大	1	1	
千葉大	1	1	2	合 計	27	137	早稲田大	15	8	福 山 大	1	1	東京ロッセリス	1	1	
横浜国立大	2	1	3	公立大	27	137	麻布大	1	1	福 岡 大	1	1	合 計	11	11	
東京大	25	1	26	札幌医科大	1	1	フェリス女大	1	1	合 計	266	315	就 職	男	女	計
東京医歯大	1	1	2	東京都立大	1	1	朝 日 大	1	1	短 大	1	1	国 家 公 務 員	1	1	
東京外国語大	1	1	2	都留文科大	1	1	南 山 大	1	1	京 都 大 医 技 短	1	1	府 公 務 員	1	1	
東京学芸大	1	1	2	愛知県立大	1	1	京 都 外 国 語 大	2	5	大 阪 大 医 技 短	3	3	兵 庫 県 警	1	1	
東京農工大	1	1	2	名古屋市立大	1	2	京 都 産 業 大	2	2	神 戸 大 医 技 短	3	3	合 計	1	2	3
東京工業大	18	18	36	京都市芸大	2	2	京 都 女 子 大	24	24	京 都 府 立 大	2	2	60年(昨年)	男	女	計
お茶の水女大	3	3	6	京都府立大	5	5	京 都 薬 科 大	2	15	青 山 学 院 女 短	1	1	国 立	194	83	277
電気通信大	1	1	2	京都府立医大	1	1	同 志 社 大	45	19	学 習 院 女 子 短	1	1	公 立	31	22	53
一 橋 大	3	1	4	大阪女子大	3	3	同 志 社 女 子 大	11	11	東 京 女 子 短	1	1	私 立	292	326	618
新 潟 大	1	1	2	大阪市立大	5	12	仏 教 大	2	2	大 谷 大 短 大	1	1	短 大	8	1	9
富 山 大	1	1	2	大阪府立大	17	10	立 命 館 大	31	17	京 都 女 子 大 短 大	20	20	専 修	7	7	
福 井 医 科 大	1	1	2	神戸市外大	5	5	龍 谷 大	2	3	同 志 社 女 短 大	5	5	就 職	2	2	
信 州 大	1	1	2	神戸商科大	2	2	大 阪 医 科 大	4	1	平 安 女 学 院 短	2	2	合 計	55	62	117
静岡大	3	3	6	奈良県立医大	1	1	大 阪 経 済 大	1	1	関 西 外 語 短 大	2	2	61年(昨年)	男	女	計
浜 松 医 科 大	1	1	2	和歌山県医大	1	1	大 阪 工 業 大	1	1	関 西 女 子 美 短	1	1	国 立	23	84	107
名古屋工業大	1	1	2	合 計	28	45	大 阪 歯 科 大	1	1	金 蘭 短 大	2	2	公 立	37	20	57
三 重 大	2	1	3	私立大	28	45	大 阪 歯 科 女 大	1	1	帝 塚 山 学 院 短	3	3	私 立	215	285	500
滋 賀 大	3	1	4	融 農 学 園 大	1	1	大 阪 薬 科 大	14	14	フ ー ル 学 院 短	1	1	公 立	26	53	79
滋 賀 医 科 大	2	2	4	女子栄養大	1	1	大 阪 薬 科 大	14	14	甲 南 女 子 大 短 大	1	1	短 大	60	60	
京 都 大	49	8	57	駿 河 台 大	1	1	大 谷 女 子 大	1	1	神 戸 女 子 短 大	3	3	専 修	12	12	
京都教育大	3	3	6	青 山 学 院 大	2	1	關 西 女 子 大	35	22	神 戸 手 子 短 大	1	1	専 修	2	9	11
京都工機大	12	7	19	学 習 院 大	3	3	關 西 医 科 大	2	3	松 蔭 女 子 学 院 短 大	7	7	就 職	3	3	
大阪大	51	25	76	北 里 大	2	2	關 西 外 国 語 大	1	1	短 和 短 大	1	1	合 計	511	661	972
大阪外国語大	8	8	16	慶 応 義 塾 大	32	4	近 畿 大	3	5	關 西 女 子 短 大	1	1	62年(本年)	男	女	計
(内2部)	(1)	(1)	(2)	国際基督教大	2	2	摂 南 大	2	1	武 庫 川 女 子 短	5	5	国 立	27	137	164
大阪教育大	5	33	38	駒 澤 大	1	1	帝 塚 山 学 院 大	1	1	帝 塚 山 短 大	2	2	公 立	28	45	73
神 戸 大	26	12	38	上 智 大	5	6	梅 花 女 子 大	1	1	合 計	70	70	私 立	266	353	619
(内2部)	(1)	(1)	(2)	成 溪 大	1	1	阪 南 大	1	1	準 大 学	男	女	短 大	70	70	
奈良教育大	1	1	2	成 城 大	3	3	帝 塚 山 大	1	1	防 衛 医 科 大	2	2	準 大	3	1	4
奈良女子大	4	4	8	創 価 大	3	3	奈 良 大	1	1	気 象 大 学 校	1	1	専 修	11	11	
和歌山大	1	1	2	中 央 大	4	1	關 西 学 院 大	42	45	航 空 保 安 大	1	1	就 職	1	2	3
鳥 栖 大	1	1	2	津 田 塾 大	3	3	甲 南 大	4	10	合 計	3	1	合 計	279	351	630
鳥 栖 医 科 大	1	1	2	東 京 理 科 大	9	1	甲 南 女 子 大	6	6	専 修 学 校 等	男	女	計			
岡山大	3	2	5	東 邦 大	2	2	神 戸 学 院 大	5	5	大 阪 府 立 外 国 語 大	1	1				
広 島 大	17	7	24	東 洋 大	1	1	神 戸 女 学 院 大	21	21	大 阪 府 立 外 国 語 大	1	1				

# 想

題字 阿部俊一先生

## 自己を表現すること

辰巳泰子 (96期)

北野高校を卒業して、三年と半年が過ぎた。受験浪人、短大卒、就職、そして事情あって退職し、今はアルバイト中である。長い夏の暑さをもてあましながら、思うようにはいかんもんだなあ、とフウフウ言っている。

しかし思い出してみても、自分にとって内面の最大の転機は、高校時代にあったように思う。そこで私は、自分にもっとも適した自己表現のあり方を掘り出すことができた。

高校時代の私は、芸大を目指してデッサンを習っていた。身近なベンチケース、辞書、カッターシャツの生地、うねりなど、また、石コウも描いてはみたが、およそ上手とは言えなかった。というよりも、描ききれない部分が常に残った。自分へのこだわりが捨てきれなかったからか？ 雑でアンバランスな画面はそのまま、私の性格だった。

今のようにブラブラしていると、ついこんな風に、昔のことを思い出す。昔の出来事から、今の答を探そうとする。昨日、私は画用紙を買い、自分の左手を見つめながら、Bの鉛筆を走らせてみた。何かが変わったのではないかという、淡く、過大な期待をこめてみた。ところが、鉛筆の先がすり減るほどに、書きこめば書きこむごとに、私の焦りは増してゆく。あの頃と何ら変わりのない、雑でアンバランスな画面が私を圧迫する。

私は一体、何がやりたい人間なのだろう。

私の出したい答は何なのだろう。

白い画用紙に向き合うことと、自分自身の醜い部分と向きあうこととは同義だった。それが耐えられず、私は筆を折ったが、今も絵を描きたい気持ちには変わりはない。だがそれ以上に、今の私を、必要な答に導いてくれる一片の詩形がある。それは、高校時代、私を苦しさからすくいあげてくれた、短歌であった。

短歌、といえば、今や空前のブームとなった、「サラダ記念日」の俵万智さんを思う人も多いと思うが、現代歌人が皆あかあか、また二十代の若い歌人が皆そうかというわけではない。私が短歌そのものを始めたのは中学生の頃なので、もう七年になるが、私が短歌を作っている、といって最も困惑するのは、「では、一句作ってみて下さい」と言われた時である。相当教養のある人でも、平気でこんなことを言う。短歌は一首と数えるものだ。それと同じ位困惑するのが、「ああ、サラダ短歌ですか」と言われた時である。俵万智が気に入らないのではない。若者の短歌—サラダ短歌という結びつきが、大変残念に思われる。それは、尋ねる人の無教養から来るというよりは、短歌の世界の閉鎖性を思い知らされる間だからだ。いろんな人たちに、短歌の素晴らしさを知ってほしいが、短歌に対する一般のイメージというのは、

短歌—雅、花鳥風月、十二単衣のイメージ

短歌—俵万智、サラダ短歌のイメージ

この二つに、二層分解してしまい、この狭間にある、最も濃くて味わいのあるエキスがまるでも抽出されてないのである。つまり、私が短歌にもっとも深い魅力を感じる部分といえよう。

自己を表現する、ということ。私はそれを最大限に行うのが短歌であると思う。そこに、五、七、五、七、七の短かい三十一音で言えることなんて限られているじゃないか、という考え方もあることは承知である。だが、私がある歌人（現在、「短歌現代」誌の編集長をやっている、高瀬一誌さん）に諭された言葉のなかに、「言いたいことはひとつ。」

と、いうものがある。たくさん言いたいことがあるかもしれない。しかし一番言いたいことをひとつ。そのひとつを、純粹に、あざやかに、シンプルに載り取ることができるのが短歌詩形の魅力であろう。

そして短歌という詩形は、他の詩形と比べて、作者との結びつきが強い。仮に、詠まれた内容がフィクションでも、それは作者の実体験か内面という見方をするならわしのようなものが殆ど暗黙のうちにある。というより、一首の作品が詠まれた場合、歌壇の内外ともに、これは作者の実体験かどうかということに対して、口に出す出さないはおくとして、誰もが相当にこだわる。一ばしの評論を書く人でも、その一首を解説するときに、必ずといっていいほど作者の年齢や職業にからめて展開する。作者、即ち作品また即ち作者、という構図が成立してしまう。小説の解説や書評を書くときに、この中で作者は誰で、〇〇は作者の××の体験を表現している…といった内容になることはそう多くはない。いや、そんな見方をする時代を、他分野はすでに通り過ぎたのであろう。しかし短歌はそういう読みが主流でありつづけるのではなからうか。

作者が自己を表現する詩形が短歌である、といった、お膳立てのみが整っているのではない。こうした読みをさせてしまうことが、短歌詩形そのものもつ、衝撃力であるといつてよいだろう。いちばん言いたいことを、きりりと載りとる。鋭い刃のような詩形であるからこそ、私はその切れ味のよさと光沢を愛するのである。

影といふ影を見送るおもひして十七度目の夏至の日は過ぐ

繁るままにしげりてある日葉をおとす憎しみも樹に似てゐるならむ

高校時代の作と、最近作を並べてみた。切れ味がいいかどうかはともかく、私をこの詩形へと導いたのは、ほかならぬ高校時代の心の葛藤であったと思う。その時代に、誰もが探しあぐねる、「自己を表現すること」に私はさいわいにも、行きあたることができたようである。

(第33回 角川短歌賞 佳作入賞)

# 六稜同窓会だより

## 六稜昭三会 (昭和3年卒・41期生)

年と共に会員数も減ってくるのが心淋しいです。それで年に一回でも多く、且つ一時間でも長く歓談出来る機会を持つべく春秋二回の会合と、一部、二部とに会場を開くよう計画して居るわけです。幸い何れの場合でも20数名の方々の元気な姿に接する事が出来、ご夫人同伴で参加して呉れる会員も居ります。

先づ昨年10月11日秋季総会の第一部ではNHK大阪放送局を見学しました。幸い同局制作部芸能統括副部長土居原作郎氏(ドラマ制作チーフ・プロデューサー)のご好意により、約1時間に亘りビデオ放映(テレビドラマ現地ロケ)並に局内スタジオ(テレビ向け室内セット模様)等の見学、その後同氏よりNHK上方ドラマ制作の裏話を30分程ユーモラスに聞く事が出来ました。引続き第二部会場として大阪郵政会館にて午後8時過ぎまで懇談にふけりました。土屋先生を始め会員ご夫人を含め21名の出席でした。

次に本年春季総会を去る5月16日午後1時よりアサヒビール物次工場にて開催、工場見学(第一部)並に見学終了後同工場内ホールを借用して総会懇親会(第二部)を催しました。お蔭様で飲物一切特別のサービスで、同社特注の折詰弁当を前に長時間歓談し午後5時前一杯機嫌で散会しました。同工場見学等に付ましては、会員兎玉市太郎君光枝夫人のご実弟松分光朗氏(同社常務取締役営業副本部長一六稜59期生)の大変なるお力添えに預ったご好意に対し感謝致しますと共に、総務課中方敏夫氏のご尽力にも厚くお礼申し上げます。

当日参加者は会員並ご夫人合せて26名です。東京昭三会も同じく年二回の会合を持つ事とし、昨年9月25日(9名)、本年3月26日(8名)が皆元気に会合したとの由、幹事佐野一雄君より報告を受けています。

- ◎ 平井篤造君(61・11・3) 勲三等瑞宝章 叙勲
- ◎ 故潮崎俊一君(62・2・13) 正四位勲三等旭日中綬章 叙勲
- ◎ 田村節三君(61・11・3) 藍綬褒章 受章  
(昭和62・6・25 末吉記)

アサヒビール工場見学参加者写真(右側参照)

(前列左より)

新井、田中(幸)夫人、兎玉夫人、浦田夫人、藤本(元)、垣本、日納、坂口、岡田、土出

(後列左より)

北橋、成田、栗山、兎玉、川田、浦田、俣野、呷地、村井、田中(幸)、田中(喜)、井上、山本(勝)、川畑、赤松、末吉。

## 昭和7年卒、六稜45会

### 昭和62年度総会・懇親会

風薫る新緑の5月22日・23日、三重県志摩郡志摩町和具で、会するもの、水鳥先生を含む26名、サザエ・アワビ・イセエビ等、海の幸で満腹、燗途伊勢神宮(内宮)参拝、70才を過ぎると健康的に支障のある人も出てきますが、会に出席した面々は歌に、酒に、昔話しに時の過ぎるのも忘れるような会合でした。

当日の出席者は下記の通り、(敬称略)

水鳥先生、芦村、有山、小野、佐藤、高野、竹本、田中、冨田、中島(尚)、中野、中村(治)、西川、野田、廣瀬、布施、古江、松井(一)、松井(正)、森山、森島、守口、山崎、山田(元)、川崎、俊、(幹事、中野・森山)

次期幹事：布施、中村(治)

### 四九会東京・大阪合同旅行

昨年は卒業50周年を記念して会員の文集「澁江の畔」を出版、桜橋・北京で土屋、水鳥、小林諸先生、物故会員のご遺族も参加していただき盛会。

今年は2年に1回の東京・大阪の中間で開く。5月9日・10日愛知県三ヶ根簡易保険保養所で元サンスポ社長、現東川企画の東川一郎君のお世話で開催。9日午後豊橋集合、途中ガン封じの寺、三ヶ根山頂の殉国七烈士の墓など見学、慰霊碑の中に六稜会之碑を発見記念撮影をする。(ただし北野の六稜会ではありません。)

夜一風呂浴びて大谷先生を囲んで祝宴、参加約40名、翌日、観光組・ゴルフ組に分かれる。観光組は西浦から伊良湖、伊良湖畔を散策。会員、中野大、伊勢湾フェリー社長の招待で、伊良湖一鳥羽間は一等船室でゆったりした気分で団樂を楽しみ、鳥羽から燗路につく。



## 中国大使館参事官

### 段さん囲み同窓会(64期)

#### 20人と懐かしい再会



府立北野高校を卒業した在日中国大使館参事官、段元培(ドゥアン・ユアンペイ)さん(56)を囲む同窓会が30日、北区西天満のレストランで開かれた。

段さんは、昭和14年に母親が亡くなり、家計を助けるため8歳の時、父の知人に連れられ来日。日本語を勉強し、旧制高松中から旧制北野中に転入し、途中新制になり、北野高校を卒業。中華料理店で働きながら27年、大阪市立大に進んだが、翌年、帰国した。

中国では中日友好協会などで通訳や翻訳の仕事にたずさわり、一昨年、大使館勤務になった。

同窓会には妻の岑鑫宝(ツェン・シンパオ)さん(51)と一緒に出席。会は54年から毎年のように開いているが、35年ぶりの人もおり、20人の同窓生と懐かしの再会を果たした。段さんは「食料が乏しかった高校生のころ、遊びに行った友人宅で、お母さんがサツマイモを二つに割り、友人と自分に片方ずつくれたことが忘れられない」などと思い出を語り、「国同士が対立していても、国民はお互いに理解し合えることを私は体で感じている。この気持ちを大切にしていきたい」と話していた。

(S62. 1. 31 読売新聞記事より転載)

## 78期(昭和41年卒)同期会

昨年、昭和61年1月4日に卒業20周年同期会を開催しました。7名の先生方を交え、80余名が集い、楽しい一時を過ごしました。「だあれが生徒か先生か」という感もあって、20年の歳月をしみじみと思ったことです。次は25周年にあたる昭和66年に関こうと語り合いました。

ところで、これとは別に、数年前から正月に声をかけあって78期の新年会を行なっていて、毎年男女とりまぜて30名前後集まっています。来年(昭和63年)も1月3日午後3時、いつもどおり大阪グランドホテル(北区中之島)で開きます。出席の方は、なるべく12月20日までに岸田(0727-22-3327)までご連絡くだされば幸いです。

これまで、経費・労力の都合で全員に通知ができないので、主として口コミに頼ってきました。ご存知なかった方には大変失礼をしましたが、毎年1月3日午後3時にここに来れば、同期生に会えるというふうにおぼえておいてください。(岸田邦和 記)

## 日豪レース

### おしどりヨット、は完走した 私がカジをとる !!

夫を救った四本(旧姓鈴木)智子さん(91期)貯金600万円をはたき、中古ヨットを購入してメルボルン-大阪間ヨットレースに挑戦した大阪市西淀川区花川1、海洋生物調査ダイバー四本泉さん(32)智子さん(26)夫婦の「星羅(セーラ)」号が7日午前10時46分、大阪北港沖に総合29着でゴールインした。所要時間は45日22時間46分。外洋では素人に近い夫婦の挑戦で、泉さんが負傷、レース参加のヨット仲間が、初めてカジを取った智子さんを無線で支援、完走にこぎつけた。

新造の最新鋭ヨットがほとんどの中で、中古の「星羅」はメルボルンまでの航海でも浸水やマスト折れのトラブル続きの末、スタート直前にメルボルン入りした。ヨット歴も泉さんが近海で10年余りというだけ、他の参加ペアに比べて大きなハンデを負っての挑戦だった。

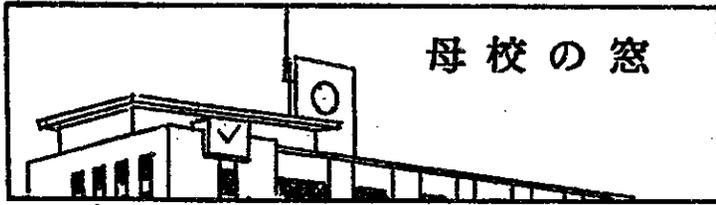
レース半ばで泉さんが足を骨折、「もうだめ」と泉さんはあきらめかけたが、「私がカジを握る」と智子さんが頑張り、負傷を知った参加艇「コーデン・オケラ」の多田雄幸さん(57)らが無線でアドバイス、レースにかけた執念に海の女神もほほえんだ。

上陸した智子さんは「日本に近づいた時、低気圧に巻き込まれ、ロッド骨を打って痛めたことがレース中もつらかった。今はアイスクリーム、トンカツ、水たき……。船で食べられなかったものを食べたい」と真っ黒に日焼けした顔に笑顔を浮かべた。先月14日、洋上で結婚記念日を迎えたが、「つまらないことでけんかしてしまって1日中、口をきかなかった」と苦笑い。



### ペビーには「星羅」の名

泉さんは「完走できて親孝行できました。今度は優勝する船でもう一度出たい。ペビーには星羅と名づけた」と話し、「目標は完走でした。何度棄権しようと思ったことか。大海原で仲間の温かさに涙しました」と二人で顔を見合わせた。(S62. 5. 7 読売新聞から転載)



## 母校の窓

## クラブだより

62. 8. 1 現在

### 職員異動

友田 健次 S60～S62 教頭  
 野々村 博 S32～S62 保健体育  
 御堂岡 啓 S38～S62 数学  
 上原 昭男 S42～S62 英語  
 船木 照二 S43～S62 物理  
 松田 秀樹 S45～S62 数学  
 中川 義邦 S47～S62 国語  
 山本セツ子 S38～S62 主事  
 吉村 昌己 S54～S62 主事

の先生方のご退職、ご転勤されました。(山本・吉村両主事は5月11日付、他の先生方は3月31日付。)

友田前教頭先生は香里丘高校校長に、野々村先生は大阪経済大学教授に、御堂岡先生はご退職、上原先生は、帝塚山高校に、船木先生はご退職、松田先生は箕面東高校に、中川先生はご退職、山本主事は島上高校に、吉村主事は府教委施設課に移られました。中川、御堂岡両先生には引き続き本校講師でお世話になります。

友田先生の後任として森延哉教頭先生を阿武野高校(教頭)から、また次の新しい先生方を4月1日付で本校にお迎えいたしました。

白井 規夫 英語 (市岡高校)  
 上田 守 数学 (桜塚高校)  
 正者 充朗 国語 (刀根山高校)  
 岡田 拓史 物理 (北野定時制)  
 下村 肇 生物 (西淀川高校)  
 木本 和利 英語 (高槻南高校)  
 平田 耕治 数学 (新任)  
 篠崎 友宏 保健体育 (新任)  
 西尾 佳子 養護助教諭 (新任)  
 福田加奈恵 主事(守口東高校 欠付)  
 本下 和弘 主事 (新任 欠付)  
 西田 知史 主事 (新任 欠付)  
 山田 輝郎 薬剤師(昨年10月より)

### お知らせ

プール附属室(121.5㎡)が本年3月、プールサイド横に完成。トレーニング機器を8種類備え付け、雨天時の授業、クラブの活動に使用される。

### 御不幸

藤田五郎先生(数学、S15～S23)が昨年9月に、岩橋栄一先生(学校薬剤師、S36～S61)が昨年10月に、三島政一さん(書記、S25～S38)が本年2月に、矢野淳一先生(旧姓織田、英語、S15～S19、教頭S43～S45)が本年6月に、梅垣淳二先生(S5～S18、物理化学)が本年9月にお亡くなりになりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

### 御寄付をいただきました

一昨年54回久野友博氏より笹部桜をご寄贈いただきました。また、東京六校会より、第30回総会を記念してトレーニング機器(10万円相当)をお贈りいただきました。紙上より、御礼申し上げます。

### お詫びと訂正

記念誌「創立110周年」(昭和58年発行)P52の写真①(高校野球応援バス転落事故)は「北野百年史」(昭和48年発行)P1536の本文と写真によるもので、「読売新聞」7月30日(昭和32年)夕刊の記事と写真であると記していますが、「読売新聞」ではなく「毎日新聞」と訂正致します。昨秋、葛野兼一氏(59回)より御指摘を受け、両書の誤りが明白になりましたので、紙面をお借りしてここにお詫びして訂正する次第です。(「創立110周年」旧編集係)

### 第二回文化活動振興賞決定

文化活動の顕著であった部、同好会または個人に贈られる文化活動振興賞は、昨年文化祭当日のベートーベン田園交響曲の演奏等の演奏活動に対し、オーケストラ部に贈られた。

### 【応援部】

女子部員6名入部。野球部三回戦進出で燃えた夏、8月に能勢で合宿。

### 【ラグビー】

公式戦 全国大会予選 40-8 大阪商、58-0 守口、36-4 上高、0-19 同志社香里。近畿大会予選 22-3 八尾南、9-10 淀川工。府春季大会 59-0 芥川、42-0 高津、36-0 富田林、30-0 高槻南、26-4 太成、決勝14-0 興国。ブロック優勝。定期戦 29-4 天王寺、31-10 洛北。

### 【野球】

公式戦 秋季大会 4-11 商大附。春季大会 3-0 柏原東、0-7 大工大高。大阪大会(夏)6-1 岸和田産、10-0 阪南、0-5 泉尾。定期戦 0-6、0-1 浪商。1-9 市岡。4-7 天王寺。

### 【器械体操】

大阪高校総体 二部男子個人総合10位。オープン競技床B3位。

### 【女子ソフトボール部】

大阪高校総体 4-2 旭、0-10 大和川。夏季大会 22-8 市岡、15-3 天商、3-3 八尾南、入替戦2-3 市商B残留。春季大会 1-0 泉尾、12-5 淀商、12-5 市岡、Bリーグ入替戦4-1 藤井寺、Aリーグ昇格。全国総体予選 10-0 八尾東、9-1 南寝屋川、0-4 茨木西。

### 【サッカー部】

公式戦 全国大会府予選 1-0 追手門、対関西大倉、対旭共に0-0(PK勝)、1-5 柏原。冬季大会 2-2 東豊中(PK負)。高校総体府予選 0-0 金光第一(PK負)。定期戦 1-1 膳所。

### 【合気道】

文化祭では熱気あふれる演武。6月21日新宮高校を迎えての6校合同練習。夏合宿は阿部先生、木下氏、O B諸氏の御指導、御協力で無事終了。本年は、新入生が多く、現在34名と一気にふくれあがり発展の期待大。

### 【山岳】

大阪春季登山大会 男子3位女子2位。府民大会少年男子1位多田裕史。夏山南アルプス。秋は六甲全山縦走。

### 【女子バスケット】

公式戦 大阪高校総体 北野53-36 淀川女子、19-78成蹊。新人大会 62-23箕面東、55-38豊中、45-58茨木西。大阪高校選手権45-46信愛。定期戦 北野37-62天王寺。

### 【女子テニス】

公式戦 春季大会、団体ベスト16。一学区杯(尾高、鶴田、松岡)ベスト8。尾高、浜田第3位。サンケイ杯、塚原典子 本選2回戦進出。定期戦 5-2市岡、4-3天王寺。

### 【男子テニス】

公式戦 大阪ジュニア 会津、松岡本選2回戦、佐々木、山岸本選進出。春季大会 佐々木本選3回戦、会津松岡本選2回戦進出。団体ベスト4。一学区杯 平野準優勝。定期戦 対市岡、天王寺、共に全勝。

### 【女子バレー】

公式戦 大阪高校総体 対阿武野、鳥飼、箕面共に負。部別(秋)対鶴見高、吹田、高槻北、共に2-0昇格。部別(春)対精華北、泉鳥取、茨木西、共に2-0一部昇格。I・H予選 2-1堺高、0-2和泉。定期戦 北野2-0天王寺

### 【陸上競技】

近畿高校総体 3000m 6位門田佳子。大阪選手権、4000m H 6位田中陽子。豊能駅伝優勝(女)門田、八木、安井、山岸、麻生。

### 【柔道】

公式戦 大阪高校総体 対久米田負。北地区学年別2年A対東淀工負、B対島上負、1年A対北陽負、B対摂津負。北地区大会 対箕面負。女子体重別府予選万井3位、近畿大会負。定期戦 京大招待 対大教大付負。12校戦 対長田勝、対清風勝、対星陵負。天高戦 点取、勝抜共に負。

### 【水泳】

大阪高校対抗 女400継7位(河本、田子島屋・佐竹・板橋)、女400混継5位(同上逆順)女100背3位河本、8位田子島屋。中央大会 女400混継9位(田子島屋・佐竹・板橋・河本)。

### 【男子バレー】

公式戦 大阪高校総体 2-0箕面学園、0-2北千里、2-0東豊中。春高バレー 2-0摂校、2-1堺市工、0-2大成。春季部別 対池田、高津、西浦、共2-0一部昇格。定期戦 2-1天王寺。

### 【ハンドボール男・女】

公式戦 夏季高校総体(男)18-8吹田東、14-17豊中。春季高校総体 45-13渋谷、16-27大阪商。定期戦 天高戦 新人男22-17勝、女10-6、現役男16-35、女15-14。

### 【男子バスケット】

公式戦 大阪高校総体 41-89浪商。大阪高校選手権78-65PL、52-46西森屋川、73-51生野、40-67桜宮。定期戦 四高定期 59-54神戸、95-60灘。天高戦 44-47負。

### 【剣道】

公式戦 大阪高校総体(男)対高津、春日丘勝、(女)対摂勝。全国高校大会(男)工大高に勝ち4勝(女)3勝。定期戦 三校戦男女団体、高木信子、優勝。男女共対大手前負、天高勝。

### 【バトミントン】

近畿大会府予選 男単、複共ベスト32。大阪高校大会 男複ベスト32。

### 【卓球部】

公式戦 大阪高校総体(男)3-1箕面、3-0池田、中央大会進出3-1同志社、1-3大阪市立。(女)対豊中勝、対梅花負。選抜大会男府下15位。インターハイ予選(男)対箕面勝、対桜塚負。(女)3-2池田、3-0池田北、中央大会 0-3天商。定期戦 12-3天高。市岡戦9-6秋、5-10春。六稜杯(秋)仲上俊司、前野友紀(春)本田啓司、口村典子。

### 【オーケストラ】

六校音楽祭(11月)。文化祭(ベートーベンの一番)に出演。天高にて開催の六校祭に向け頑張っています。

### 【書道】

昨年11月全国学生書道展で大阪府教育委員会賞と読売新聞社賞を受賞。本年1月、第1ブロック展出品。

### 【美術】

昨年夏、高校展出品(油絵個人部門優秀賞、同学校部門奨励賞受賞)。本年2月第1ブロック展出品。

### 【コーラス】

昨年夏は全国高校総合文化祭に、秋は第一ブロック音楽会、六校音楽祭に出演。本年夏はNHK全国音楽コンクール参加。校外でも活躍中。

### 【化学研究部】

学期毎の「化研誌」の発行を予定。第一号は8月末に発行。

### 【放送部】

KBS京都「こちら青春放送局」への応募作品の制作に燃えています。

### 【文芸】

「幻」年四回発行。文化祭で北野文学第47号の発行と「俳句」の研究。

### 【E・S・S】

スピーチコンテスト出場、文化祭は、英語劇「Wの悲劇」に出演。

